

三商同窓会報



No.48

ホームページアドレス <http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/>

都立第三商業高等学校同窓会



記念講演 『私とバレーボール』 出町 豊氏 (20期)



懇親会での面々 新卒者(75期)も加わり、和やかに盛り上がった。

平成二十年度 同窓会定時総会の開催報告

三十一期 事務局 三浦 康二

平成二十年十一月七日(金)午後六時半より、墨田区江東橋、「すみだ産業会館サライズホール」を会場にして都立三商同窓会定時総会を開催致しました。

第一部は、三十期卒の藤倉久男理事の司会で始まり、柴崎同窓会会長のあいさつに続いて、天野校長による来賓挨拶、そして事務局からの報告事項があり、次に同窓会としては初めての試みとなりました三商同窓会の運営または活動に多大な貢献及び功労がありました方々に対しての感謝状の贈呈が行われました。

続いて、記念講演として二十期卒業生で明治大学、日本鋼管とバレーボールの人生を進んで来られ、昭和三十九(一九六四)年の東京オリンピックにも出場された出町豊氏による『私とバレーボール』と題しての講演があり、出席した同窓生一同は感動に浸ることができました。

出町氏にはますますの今後のご活躍を祈るとともに厚く御礼申し上げます。

第二部は、二十八期の鷺 嘉雄理事の司会により懇親会に移り、和気あいあいとした楽しいひと時と、同窓会に対するますますの支援を全員で約し合う、意義の有る懇親会となり、最後は木戸顧問の演奏に合わせて校歌と応援歌を全員で声高らかに、二十六期古田監事より寄贈された三商の校旗のもとで、サライズホールも割れんばかりの熱気の中で閉会となりました。

本年はあと大きな行事としては、二十一年十月三日(土)に日比谷公会堂で行われる「東京校歌祭」の参加があります。

どうか三商の底力を見せる大きな機会ととらえて、日比谷公会堂で一〇〇人の大合唱をしようではありませんか。

(20ページの「校歌祭のご案内」をご参照ください。)

定時評議員会報告

平成二十一年五月九日(土)午後六時よりすみだ産業会館九階「会議室 四」において、平成二十年度の年次定時評議員会が開催されました。

活発な討議が行なわれました。議案は全五議案で、議事の内容は左記のとおりです。

(一) 同窓会会則一部改定の件

第三章 第八条、第九条、の一部を改定する。八条で監事は理事より互選するところがあるが、監事と理事をはっきり区別する。

九条で評議員の議決権を一期一票であったのを一名一票とした。提案説明があり原案のとおり承認された。

(二) 平成二十年度事業報告承認の件

(三) 平成二十年度会計報告及び

監査報告承認の件

(四) 平成二十一年度事業計画承認の件

(五) 平成二十一年度会計予算案承認の件

(二) から (五) までの承認事項につきましては、それぞれ提案理由のとおりで、原案のとおり賛成多数で承認可決されました。

平成二十年度の事業について

五月十日

定時評議員会 (亀戸文化センター)

八月二十八日

「三商同窓会報」四十七号

創立八十周年記念特別号発行

十月四日

第十六回「東京校歌祭」

(日比谷公会堂) 参加

十一月七日

同窓会総会

(すみだ産業会館 サンライズホール)

二十一年二月七日

同窓会新年会

(ザ・ホテルベルグランデ)

理事会開催回数五回、他各委員会開催のほか従来どおり恒例的な母校の行事(入学式、卒業式、三商祭)に各理事が参席または見学に行く。

平成二十一年度事業計画について

(一) 年次定時評議員会の開催

五月九日実施済

(二) 「三商同窓会報」四十八号の発行

今回は発行費用捻出のため広告掲載の協力を仰ぐ。

(三) 第十七回「東京校歌祭」への参加

日時 平成二十一年十月三日

場所 日比谷公会堂

集合時間 午後二時

(四) 定時新年会

平成二十二年二月初旬予定

(五) 活性化活動

同期会開催の手助けを行なう。

同期会が行なわれていない期に呼びかけて、同期会を開催してもらう。

また、同窓会マップの作成にとりかかる。

(六) 支援活動

母校への支援(部活動支援、就職

活動支援、その他)

また、卒業証書入れ寄贈

財団法人東京三商会

逐次情報交換をして今後の運営等

(七) について考える。

役員名簿

理事

二十五期 会長 柴崎晴雄

二十四期 副会長 尾坂富美子

二十六期 副会長(事務局) 岩瀬和子

二十九期 副会長 土方敏之

三十一期 副会長(事務局) 三浦康二

二十期 理事 河原啓介

二十一期 理事 富張勝三

二十二期 理事 篠崎清

二十六期 理事(事務局) 杉本光男

二十八期 理事(会計) 田端彰

二十八期 理事 伊澤宏祐

二十八期 理事 鷺嘉雄

三十期 理事 藤倉久男

三十七期 理事 平野淳一

三十七期 理事 渡邊秀明

四十八期 理事(会計) 古田勝一

二十六期 監事 辻井正巳

二十七期 監事 三川廣志

三十四期 監事 大嶽清

十二期 顧問 木戸隆吉

十九期 顧問 児玉透

評議員

二期 大平龍夫

四期 黒須康介

五期 好川榮一

八期 平田助治

九期 安藤興一

十一期 中島健作

十二期 吉岡鶴義

十三期 今関隆一

十四期 大山高志

十四期 江田栄介

十五期 塚越泰一

十五期 小池史郎

十六期 森川山麓

十六期 金田耕一

十七期 飯田幸男

十七期 田中恒吉

十八期 児玉透

二十八期	二十七日	二十七日	二十六期	二十五期	二十五期	二十四期	二十四期	二十三期	二十三期	二十二期	二十二期	二十一期	二十期	二十期	十九期	十九期
小林 慎典	森 達夫	水戸部 滉	清田 実	小野田 良子	井上 嘉久	岸 和子	福原 伸行	小暮 清	鈴木 進輔	越路 正巳	才木 健之	淺野 修一	平林 慶雄	富岡 輝彦	菅波 良司	根岸 駿
三十七期	三十七期	三十六期	三十六期	三十五期	三十五期	三十四期	三十四期	三十三期	三十三期	三十二期	三十一期	三十一期	三十期	二十九期	二十九期	二十八期
梅原 典子	小山 晴美	林 祥一	中川 竹治	長谷川 誠	宮下 恵介	佐藤 幸子	落野 幸男	佐久間 保人	歌門 俊雄	片山 健	西邨 昭一	亀田 八千代	今泉 清	落合 清秀	濱地 昭雄	柳田 保之
五十二期	五十一期	五十期	四十九期	四十九期	四十七期	四十七期	四十六期	四十五期	四十四期	四十三期	四十二期	四十二期	四十一期	四十一期	四十期	三十九期
大澤 武志	柴崎 孝雄	土谷 武	星名 恵子	宇田川 浩一	藤波 喜代美	加藤 美喜雄	吉富 孝行	長島 昭洋	大島 敏生	木戸 克明	早船 裕子	木内 茂二	森本 仁	早船 恵三	礦波 孝	吉崎 正俊
六十七期	六十六期	六十六期	六十五期	六十四期	六十四期	六十三期	六十二期	六十一期	六十一期	六十期	五十八期	五十七期	五十六期	五十五期	五十四期	五十四期
秋元 真一	金子 幸恵	平井 宏明	小野崎 寿代	八木 晴美	佐々木 信次	山下 裕美子	村山 亮	斉藤 精一	安藤 隆	小柳 輝高	風見 修一	久保田 武則	篠原 彰	初山 優	北代 淳子	富士 智
		七十六期	七十六期	七十五期	七十五期	七十四期	七十四期	七十三期	七十三期	七十二期	七十二期	七十一期	七十一期	七十期	六十九期	六十八期
		梶村 真也	宮林 拳也	磯邊 学	上岡 未来	真利子 高志	土田 竜也	桂田 良	木村 海渡	深田 顕	梶山 宜弘	熊谷 美子	奥山 岳	今井 小百合	熊谷 真由美	田所 可織
																六十八期
																柿澤 愛

(評議員計一〇五名)

平成20年度会計報告及び21年度会計予算

平成20年度 会計報告 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)			平成21年度 会計予算 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)	
項 目	20年度予算額	20年度執行額	項 目	21年度予算額
前年度繰越	10,701,919	10,701,919	前年度繰越	10,230,411
(収入の部)			(収入の部)	
会費(76期)	1,850,000	1,749,160	会費(77期)	1,710,000
運営協賛金	100,000	30,000	運営協賛金	0
利息他	10,000	11,806	利息他	5,000
収入合計	1,960,000	1,790,966	収入合計	1,715,000
(支出の部)			(支出の部)	
理事・評議員会	300,000	170,731	理事・評議員会	200,000
総 会	300,000	-26,146	総 会	0
校 歌 祭	150,000	141,815	新 年 会	50,000
同窓会報	500,000	763,873	校 歌 祭	150,000
活性化活動費	100,000	0	同窓会報	400,000
母校部活支援	200,000	66,383	活性化活動費	200,000
就職活動支援	100,000	50,400	母校部活支援	200,000
卒業証書入れ	150,000	115,456	就職活動支援	80,000
慶 弔 費	100,000	5,000	母 校 支 援	100,000
通 信 費	30,000	660	卒業証書入れ	120,000
事 務 費	50,000	30,395	会 合 費	200,000
支払手数料	5,000	0	慶 弔 費	50,000
特別会計予算	943,907	943,907	通 信 費	20,000
			事 務 費	40,000
			支 払 手 数 料	5,000
			特別会計予算	200,000
支出合計	2,928,907	2,262,474	支出合計	2,015,000
(繰越の部)			(繰越の部)	
前年度繰越	10,701,919	10,701,919	前年度繰越	10,230,411
当期収入	1,960,000	1,790,966	当期収入	1,715,000
当期支出	2,928,907	2,262,474	当期支出	2,015,000
次年度繰越	9,733,012	10,230,411	次年度繰越	9,930,411

特別会計(周年記念事業)		特別会計(周年記念事業)	
一般会計(80周年記念事業残高)	743,907	前年度より繰越	253,061
一般会計(76期会費)	200,000	一般会計(77期会費)	200,000
協賛金	50,000	受取利息	1,000
受取利息	3,061	収入合計	201,000
収入合計	996,968		
同窓会報(80周年記念誌)	743,907	支出合計	0
支出合計	743,907		
次年度へ繰越	253,061	次年度へ繰越	454,061

平成21年度 同窓会事業計画

今年度は若い世代45期以後を中心に、同期会を行なってもらうよう働きかけをする。

同期会についてのコーディネートをし最初の名簿作成、通信費などを同窓会で支援して何人でもいいから一度同期会を開いてもらう。

また、「財団法人東京三商会」の今後の動向について真剣に考えていく。

1 定時評議員会

開催済み（2ページ参照のこと）

2 「三商同窓会報」48号の発刊

投稿締切 5月末日とする（厳守）

発行期日 7月1日

3 第17回 東京校歌祭への参加

日時 平成21年10月3日（土）

会場 日比谷公会堂

今年も100名参加を目標に

4 定期新年会

22年2月初旬 会員有志による新年会を予定。

5 活性化活動

同期会開催のコーディネートに重点を置く。

同窓会マップの作成

6 支援活動

① 母校支援（部活動支援、就職活動支援、その他）

② 卒業証書入れ寄贈

7 財団法人東京三商会については逐次報告する。

財団の関連記事として、21ページに「未来構想委員会」を組成しましたので、ご一読下さい。

平成21年度

母校行事日程

授業公開

6月13日（土） 午前10時より。
11月14日（土） 同

体験入学（事前申込制）

7月18日（土） 午前10時より。
8月21日（金） 同
10月1日（木） 同

三商祭

10月9日（金）
10月10日（土）

学校入試説明会

11月14日（土） 午前10時より。
12月12日（土） 同

平成22年
1月9日（土） 同

以上、予約・お問合せは

教務部まで。

電話 〇三（三六四一）〇三八〇

他に都立高校合同学校説明会は
左の通り。

10月25日（日）

会場は都立新宿高校にて。

11月8日（日）

会場は都立墨田川高校にて。

三商の現状と特色ある教育活動



東京都立第三商業高等学校長 天野 光芳

暑さが本格的になってきました。同窓会のみなさまにおかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、学校の教育活動にご理解・ご協力・ご支援を賜り深謝申し上げます。

さて、日本は、全就労人口の約70%が第三次産業に占められており、商業立国であることにまちがいありません。資源の乏しい我が国が、発展していくには、商業をないがしろにすることはできません。今後、約3人に2人は商業に関係したところに就き、日本経済を支えていくことを考えると、商業教育こそ日本の普通教育であり、商業を教える商業高校は大切にされなければなりません。

しかし、かつて、22校あった都立商業は現在9校のみという状況になり、さらに、東京都教育委員会は今年度から商業高校を含む専門高校全体を見直す計画にあり、現在、専門高校に対する都民の意識調査を進めております。江東区に2校商業高校がある現状を考えると、東京都教育委員会は本校の教育活動に関心を高くもっていることと思います。今後はこの状況を踏まえ、鋭意、教育活動を展開していかねばなりません。

昨年度の教育活動の結果、明らかになった課題と成果は以下のとおりです。

課題

1. 転退学率が逓増傾向にあること。
2. 問題行動や遅刻の回数を減少させる。
3. 簿記検定等、基本的な資格取得率を上昇させること。
4. 部活動の加入率を向上させること。
5. 応募倍率が低減傾向にあること。

成果

1. 進路保証ができたこと（未決定者7名） 資料参考
2. 簿記検定で1年生が65名2級に合格したこと。
3. 高度資格取得で、ステップ英検2級に1名、日商簿記2級に13名合格したこと。
4. 2学年全員対象としたインターンシップができたこと。

以上のような課題を深く受け止め、成果については伸長しつつ、逓減傾向にある応募倍率を改善させていきます。また、以下のような特色ある教育活動をPRするとともに、これまでの教育活動も充実することに邁進しますので、今後ともどうか応援よろしくお願ひします。ここで速報です。来年度から推薦入試に文化・スポーツ推薦を導入する予定です。野球部は3名・プラスバンド部は5名を予定しております。校庭から、力強い金属の打球音と、すばらしい音色がこだまする活気のある学校をめざしていきます。

速報!!

- 平成22年度入試で、文化・スポーツ等特別推薦（硬式野球部、プラスバンド部）を都に申請中です。

特色ある教育活動

生徒の進路希望を100%保証するため、大学入試にも就職試験にも十分に対応可能なカリキュラムを設定し、生徒一人ひとりの適性や能力に応じた授業を展開しています。

- ・生徒の学習到達度による習熟度別授業 1年国語総合や数学Ⅰ、1・2年英語Ⅰ・Ⅱ
- ・体育の少人数制授業
- ・情報処理など、実習科目の複数の教員のティームティーティングによる授業 等

☆ 授業

1学年 進路情報を活用する

- キャリアガイダンス

自己理解等を深め、勤労観・職業観を育成する。ライフプラン・キャリアプランを考える。

- 簿記、情報処理

- 教科「奉仕」 近隣小学校と連携した体験活動

2学年 進路実現に向けて

- 簿記、会計 等、資格上位級取得を目指した選択科目

- インターンシップ 都教育委員会と国際ロータリークラブとの連携協定事業の活用

3 学年 3 年間のまとめ

○ 課題研究

- ・電子商取引

都立商業高校で初

電子商取引を通じ、ビジネスマナーや起業者精神を学び、起業者を育成します。

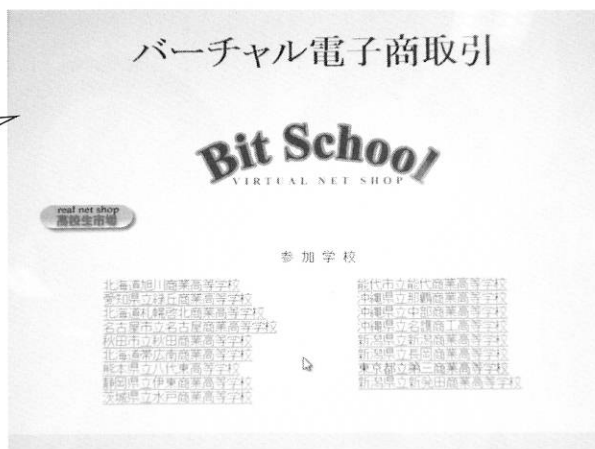
- ・販売実習 鳥取県立米子南高校など、他県の商業高校の生徒との交流活動

○ 総合実践

☆ 三商のその他の特色

○財団法人 東京三商会による奨学金制度 商業教育の発展に寄与するため無償給付

- ・**高等学校奨学生** 月額12,000円
 - ・成績優秀者
 - ・経済的理由により学費の調達が困難
- ・**短期大学奨学生**、**大学奨学生** とともにそれぞれ月額24,000円



平成21年度 教職員異動者一覧表

平成21年4月1日現在

転 出 ・ 退 職 者						転 入 ・ 採 用 者				
課程	転退別	教科等	氏 名	転 出 校	備 考	転採別	教科等	氏 名	前 任 校	備 考
全日制	転 出	副 校 長	高 石 公 一	新島	昇 任	転 入	副 校 長	佐 藤 俊 一	東部経営支援センター	昇 任
全日制	転 出	公 民	倉 田 美 雪	日野台 全		新 採	公 民	新 倉 大 輔		
全日制	任用替	数 学	柴 田 長 正	三商 新規採用		任用替	数 学	柴 田 長 正	三商 期限付	
全日制	退 職	保 体	大 羽 絹 枝	三田 全	非常勤教員	新 採	保 体	小 林 明 日 香		
全日制	退 職	英 語	高 橋 一 義	晴海総合 全	非常勤教員	転 入	英 語	都 築 美 恵	広尾 全	
全日制	転 出	英 語	宮 崎 智	八王子拓真 定		新 採	英 語	山 本 和 寛		
全日制	転 出	英 語	島 澤 典 子	橘 全		転 入	英 語	森 明 彦	八潮 全	主 任
全日制	転 出	家 庭	田 口 尚 美	保谷 全		転 入	家 庭	小 泉 早 弓	田園調布 全	主 任
全日制	転 出	商 業	福 田 秀 隆	第四商業 全		転 入	商 業	猪 野 弘	第一商業 全	主 任
全日制	転 出	商 業	床 爪 宏	大田桜台 全		転 入	商 業	泉 善 文	第四商業 全	
全日制	転 出	商 業	森 田 秀 之	大江戸 全		転 入	商 業	池 田 宏 史	晴海総合 全	
全日制	転 出	商 業	森 田 宏 恵	立川ろう						
全日制	退 職	数 学	小 出 七 恵	育休代任期終了		育休明	数 学	千 綿 芙 美	復職(育児休業)	
全日制						転 入	商業助手	箱 崎 ひとみ	第五商業 全	
全日制	転 出	理 科	永 田 洋	日比谷 全	非常勤教員					
全日制						転 入	国 語	岡 本 嘉 之	浅草 定	非常勤教員
全日制						転 入	日本史	野 村 英 昭	忠生 全	非常勤教員
定時制	転 出	国 語	梶 田 勝 枝	鷺宮 全		転 入	国 語	吉 原 泰 輔	紅葉川 全	主 任
定時制	転 出	英 語	宮 下 優 子	府中東 全		転 入	英 語	島 谷 俊 行	淵江 全	
定時制						転 入	商 業	渡 辺 忠 史	向島商業 定	
定時制	退 職	養護教諭	佐 藤 和 子	稔ヶ丘 定	非常勤教員	転 入	養護教諭	生 井 千 絵	小笠原 全	
定時制	退 職	社 会	武 藤 義 弘		再雇用終了	転 入	日本史	尾 崎 準 司	隅田川 全	
	退 職	室 長	柳 下 宏 子			転 入	室 長	竹 内 文 男	足立	再任用(7月)
	転 出	主 事	埜 中 祥 昌	葛西南		転 入	主 事	山 崎 悟	深川	
	転 出	主 事	村 越 加 菜 子	台東区立石浜小		新 採	主 事	石 井 正 俊		

各グループ活動報告

10期

十期六組クラス会

十期 荻野 文雄



秋晴れの平成二十年十月三日正午、十期六組クラス会が神田一ツ橋の如水会館で開かれた。荻野が司会、三月三十日に急逝された級友松本幸雄君のご冥福を祈って黙祷。太田誠一世話人の挨拶。

出席者の健康を祝して乾杯、夫々から近況報告。飲むほどに酔うほどに懐旧談に花が咲いて話題が尽きない。活力が甦る。名門クラブらしい雰囲気とサービスがあつて快適な一刻を過ごした。

出席者七名。石丸豊多郎、井上富士雄、太田誠一、小林英二郎、森正俊、山田泰治、荻野文雄。

太田誠一君、一橋出のエリートの元三井マン。反面、古兵タイプの内見の好い人柄。クラス会が永く続いているのは、同君が持病を押して取り仕切る心意気に依る。

井上富士雄君、旧き佳き洋画の魅力に熱く語るロマンチスト。在学の五年間、浅草橋から永代橋を渡り越中島まで自転車を通学。また、家業の雑貨輸入商を手伝い、リヤカーに乾電池を積み、自転車で曳いて松下電器蒲田工場に運んだという。車社会の現代では考えられないことだ。脚力が鍛えられた。

小林英二郎君、テレビで人形町界隈を放映すると必ず登場する粋な三味線商の大旦那。昭和二十年三月十日の東京大空襲で被災し再興した。家業の傍ら邦楽の復活を志す。

校歌「江戸の誇りを継げるわれら」の古参同士の存在。

木村一雄君、上野を中心に手広く書店の明正堂（明治四十五年創業）を経営、上野連合町内会会長、上野のれん会会長をつとめる地元の名士。発行人であるユニークなタウン誌「うえの」は、毎月錚々たる執筆陣を揃えて江戸伝統の下町文化を伝えている。本年五月、創刊五十周年記念号を発行した。

田中千次君、在学中に高等数学を勉強し、都立化工専を卒業した異色の人。戦後、酒田に移り、高校教師を歴任、一家を構えた。清田榮一先生の信頼が厚く、卒業生の就職に協力し合ったとのこと。退職後は、幅広い理工科教育の経験と知識を生かし、地元企業や、市民向け講座の講師を依頼されることが多いという。

荻野文雄、学業を疎かにして漱石・鴎外・荷風を乱読、落第をさせない教育方針の恩恵を受けた。担任の木村与吉先生の「お前は本を読むのが好きだから」という心配りで、朝日新聞印刷局に事務員として就職した。太平洋戦争緒戦の大勝利で日本中が沸いていた時代。

昭和十七年二月十一日、紀元節のこの日に英領シンガポールが陥落するか、社内が緊迫した空気に包まれていた寒い夜、「荻野、元氣か」と先生が笑いながら輪転機の仕事場に現れたのには驚いた。上司に「この男は活字が大好きですから面倒を見てやって下さい」と挨拶された。涙が流れた。老来、木村先生の茨城弁が懐かしい。

うえの No.601 2009 5 創刊50周年記念号

うえの表紙展 50年の歩み

アーサー・ビナード
青木 玉
赤瀬川原平
青柳正規
池内紀
浦井正明
岡野俊一郎
小沢昭一
鎌田 慧
古今亭菊千代
佐藤忠男
田原総一郎
坪内祐三
中川志郎
モーラン(カフカ)
須田一政
飯田 豊

17期

十七期会

十七期 飯田 幸男

十七期生も大半が喜寿を越え、昔風に数えれば八十歳になる。機械でも八十年間動き続ければ何処か故障する。会員或いは伴侶の殆どが、無病息災は難しく病を抱えながら、日々を過ごしている。今後の行事予定を考慮する時期だと感じている。



■ 行事報告

一泊旅行

平成二十年六月八日箱根「ホテル箱根MY強羅」泊。近年は加齢を考慮「安・近・静」旅行を実施。大文字山を眼前にのぞむ閑静で瀟洒な宿で温泉に浸かり寛いだ一夜を過ごした。参加はいつものメンバーの十名。夕食後はカラオケで腹ごなしの後、幹事部屋に落着き飲み直し、在校時代の昔話に時間を忘れ話が弾んだ。翌朝食後次回の再会を約して帰途につく。

グルメの会（暑氣払いを兼ね）

九月二十一日開催。今回はNHKの朝ドラ「瞳」で一躍有名になった月島西仲通りで、「もんじゃ焼」を堪能した。その前に母校三商を見学、大変革した旧石川島造船所跡を眺め月島へ。五十九年ぶりの訪問に会員一同その変わりようにびびくり。休日にも拘らず校内を案内していただいた先生、地元の大崎兄に感謝。好企画で十六名参加。

校歌祭

十月四日、日比谷公会堂で。今回はなんとか終えたが、参加者が相変わらず少ない。終演後、昨年同様富国生命ビル地下「萬里」で我が期だけで反省会。参加十名。ビールの味は格別だったが来年も今回同様では益々参加者激減が予想される。根本的な改革（指揮者、伴奏、若手の参加等）が必要との意見が出た。



忘年会

十二月七日。例年通り三菱養和会巣鴨パールテルで。参加十五名相変わらずの盛会。生田、大庭、星、溝口の諸兄はこの会には毎年参加、この一年の無事を喜び、来年の息災を祈りながら、鍋を囲み歓談。

お花見

平成二十一年三月二十六日、辻兄の企画で都心の新宿御苑で実施。温暖化で例年より早く開花予想でしたが開催一週間から「寒の戻り」でそめいよしのは残念ながら二分咲きだったが山桜が満開で何とかお花見は充分堪能できた。我が会は「花より団子ならぬ酒」の口。綱八「つのはず庵」で参加九名の大宴会。調子に乗りすぎ追加会費を徴収する有様。

訃報

頭書に記したとおり加齢とともに健康を損ねる会員が増加。幸いにも昨年は訃報を受けずに経過したが、本年初、岩尾陽吉兄が「胃がん」にて逝去。謹んでお悔やみ申し上げます。



19 期

第十九期会 同期会開催

第十九期 根岸 駿

昭和二十七年年度第十九期卒業生の同期会が次の通り開催されました。

日時 平成二十一年三月八日（日）一三時～一五時

場所 「新宿三井クラブ」新宿三井ビル五四階

出席者 五五名（参加申込者五八名内三名欠席）

司会 細田 安治

会次第 全員黙祷 藤井 孝保

一、開会のことば 中野 貞三

一、幹事代表挨拶 伊藤 昭雄

一、前同窓会長挨拶 木戸 隆吉

一、乾杯 川名 省三

一、懇談

一、校歌・応援歌斉唱 伊藤 昭雄

一、大々 小林 邦夫

一、閉会のことば 家田 寛

当日は、残念ながら曇り空。視界の良さも売り物の一つである会場も遙か遠く迄の眺望を愉しむ訳には参りませんでした。（去年は皆感嘆の声を上げたものでしたが！）

そうです。去年の会で、一九期会開催の意向を問われた際、（先のことは分からない）毎年やれとの声が圧倒的だったのが今年も開催された訳です。なお、来年は喜寿を祝って秋頃に、更には二十四年三月頃卒業六十周年を記念して開く予定だそうです。

亡くなられた方もあり、参加が叶わぬ方も出て来るでしょうが、何とか続けて行かれるようにしたいとの皆の気持ちでしょう。

一九期会は、この他にも毎月一九日の（午前）散歩会と（午後）両国大関庵にての飲み会が可なり続いており、戦争直後（所謂太平洋戦争）旧制中学三年間の終りと新制高

校三年の始まりとを体験させられた者の共通した想いが仲間を呼ぶのかも知れません。



会場の入り口で各自番号札を引かされましたが、宴たけなわの途中でその意味が分かりました。その番号順で各自の想いを簡単に喋れと云うことだったので。けれども酒が入って若かりし頃の遊び(学び?)友達と夢中でお喋りしている時とあつてはとく空回りの感があり、喋っている人にはお気の毒ですし、話もつたいたないので何とか旨

く皆が聴いて呉れる雰囲気を作れないものかと思われまして。楽しい時はあつという間で皆さんご機嫌の内、予約時間も若干超える中、全員揃って記念の写真を撮り、今日の元気を持つての再開を約した次第です。

なお、例よつての二次会は、川名省三君のお世話で懐かしの門仲に出向き、カラオケスナックにて再度盛り上がったのですが、これまたお店満杯の盛況で、一九期人のエネルギーの凄まじさを感じさせられました。これなら又来年も間違いないことでしょう!!

以上

26期

何故『帝国ホテル』か



第二十六期 古田 勝一

私共二十六期生四七二名は、昭和三十四年にあの懐かしの「時計塔の聳える校舎」を卒業し満五〇年の節目を迎えました。

二十六期同期会は還暦を迎えた年(平成十二年)から毎年六月の三週目に開催しており、今回で通算二十一回目となります。それも毎回、各クラス(二組九組)が当番制で代表幹事を受け継いでおります。

今回は一組の当番でしたので、代表幹事には杉本光男さん、岩瀬和子さん、海老根正栄さん、渡部弘子さん、山部紀子さん、定広ケイ子さん、新見うめ子さん、奥田千代子さん、石川武子さん、成毛弘子さん始め一組の方々により取り仕切つていただきました。

会場のターゲットは帝国ホテルでと決めて取り掛かつた

のですが、ジューンブライドの関係もあり、一年前より予約が満杯の状況でした。それでも幹事さんの懸命の努力で、六月十四日(日)六時半より…が漸く確保出来ました(しかも格安バックを!)。

何故、一年前より準備して帝国ホテルにこだわつたのか?それは下記三商の歴史に因んでです。

三商の初代校長(頬から顎にかけて髭を生やしており、その風貌から和製リンカーンと親しまれ、最大限の個性尊重をされた偉大な教育者)吉澤徹先生の「リトルゼントルマンたれ!!」とお教えの元、テーブルマナーも兼ね、昭和八年第一期の卒業式終了後、帝国ホテルで晩餐会を催したそうであります。(これは戦前の昭和十二年第五期卒業生迄、恒例行事となつて催されたそうです。)

以上

『新緑の候 26期のみなさんご清祥のこととお慶び申し上げます。三商を卒業してから50年、みなさん今でもお元気にご活躍されている事を想像しながら、同期会開催に夢膨らませています。あまり振り返ることをせず今日まで来てしまいましたが、あらためて高校時代のことを思い出すと、いろいろなことがつぶさに浮んできます。時の経つのは本当に早いものです。ただ、話す相手が一人、二人といなくなる寂しさを、これからじわじわと味わうのかと思うと気が重くなりますが、このたび元気に卒業50年を祝える事が、どれほど素晴らしいことかぜひご出席されて、喜びを分かち合つてもらいたと思います。毎年開催しています同期会ですが、毎回ご出席されている方はいままで通り、ご参加できない方にはこれを機にご出席してください。同期生が一同に会することの喜びをみんなで味わいたと思います。節目と言うことで奮発しましたので、ご期待にそえるかと思ひます。

記

日時 平成21年6月14日(日) 午後6時30分
場所 帝国ホテル 本館2階「蘭の間」

この様に三商草創期にゆかりのある帝国ホテルで、卒業五十周年記念の同期会が開催出来ます事は何と素晴らしい、有意義なことでありましょう。ここに幹事長の杉本光男さんによる同期会案内文を載せます。

卒業二十二年ぶりに母校で開催しました第二回目の同期会では一五〇名程の参加でしたが、その際、富山県の松本喜代子さんからの返信ハガキには『お世話人、大変なご苦労と存じます。遠い所まで御連絡ありがとう御座居ました。何をおいてもかけつきたいと思っております。夜行列車に乗り、夜行列車で帰るつもりです。今から指折り数えてその日を待ちます』と添え書きがありました。

…その松本さん、二十八年後の今回は法事があり、当初は欠席の返事でありました。ところが、その後、家族の方々の『五〇周年記念の同期会を帝国ホテルで催すなんて!! 一生に一度だけだよ』との声に促され、出席に変更された由…会費のみならず、交通費、宿泊代等諸々掛かりますのに!! ;私は胸に熱いものが込み上げて来るのを覚えました。

当日は卒業生四七二名(物故者四十六名、住所不明者一〇八名、住所判明者三二八名)の内、一〇〇名程の参加を頂き、六時半には順調にスタートすることが出来ました。天野光芳校長先生は御臨席を賜わる予定でしたが、当日突発事情により残念乍ら望みが叶いませんでした。稲田宏先生、柴崎晴雄同窓会長の御臨席を賜りました。

まず司会の海老根正栄さんよりの物故者への黙禱に始まり、岩瀬和子さんの開会の辞、私より世話人挨拶と続き、稲田宏先生の乾杯の御発声により歓談に入った訳ですが、今回は五〇周年ですので特別に奮発して六く七人編成のカントリー&ウエスタンのバンドもお願いしました。ダンスホールさながら何組かの男女ペアがダンスに興じる場面もあり、佳境に入って参りますと、同期の亀卦川幹雄さんがそのバンドに飛び入り参加してくれました。亀卦川さんは、かつて法政大学のスチールギターのスペシャリストとして鳴らした方です。

宴たけなわの中、各クラス別記念撮影をいつも通り杉本光男さんにお世話いただき、続いて校歌・応援歌斉唱を清家洋子さんと清田実さんの指揮の下、精一杯大声で歌いました。応援歌終了時には、清水博さんが渾身の応援団長ぶ

り、帝国ホテル宴会場も割れんばかりの全員での「フレイ!フレイ!三商!! フレイ!フレイ!三商!!」のエネルギーで包まれました。そして杉本光男さんの閉会の辞で無事終了。

どんなに時代が進化しても「喜怒哀楽」…人は喜び、悲しみ、悩み、語り合う生き物です。生涯青春であり続けたいとこの願いから毎年同期会を開催出来たのも、各クラス代表幹事・二十六期の仲間の強力な御支援と御協力の大さきのお陰です。

そして、同窓会事務局長の杉本光男さん、同窓会副会長の岩瀬和子さんが二十六期同期会の中軸として常に精力的な働きをされ、原動力となっていたいただいたお陰で、五〇周年記念を盛大に恙無く挙行出来たことは、特筆、賞讃に値します。本当にありがとうございました。



28 期

二十八期同期会開催報告

二十八期 伊澤 宏祐

平成二十年九月二十一日(日)芝パークホテルにおいて、一〇四名の出席のもと「二十八期同期会」を開催しました。二十八期は四年ごと、オリンピック開催年に行なう内規で、運営してきましたが、前回からの四年間に、竹田一郎先生(二組) 齊藤克先生(四組) 小暮敏雄先生(七組)がお亡くなりになり、恩師のご出席がいただけない会となりました。

はじめに、すでにお亡くなりになった恩師の先生、同期の仲間のご冥福をお祈りして黙禱。桑原浩君の乾杯発声で開演しました。

進行役の小林慎典君の名司会で、会は次第に盛り上がり、後藤省三君のかくし芸・増田恵子君の折り紙指導等により、会は最高潮に達しました。

九州から大野真言君の出席等、遠方から多数馳せ参じた仲間を交え、懇談と祝杯等で、予定の二時間半が一瞬時に過ぎてしまいました。

最後に鷲嘉雄君の提案「次回は四年後、皆の古希祝いを兼ね、同期会を開催する」を全員拍手で承認し、校歌を斉唱し、同ホテル内に設定した二次会会場に場を移しました。

内田利雄君はじめ四組の二次会運営グループが企画した二次会はクラス別対抗戦あり、カラオケあり、踊りありと言う楽しい企画が一杯で、笑顔がたえない楽しく、盛り上がった宴になりました。

今回の素晴らしい同期会が開催できましたのはクラス幹事の皆様方のご尽力あつての賜と思えます。主催者の一人として、この場を借りて謝意を称します。





31
期

三十一期同期会



三十一期 三浦康二

三十一期の同期会が、前回高輪プリンスホテルで開催してから三年ぶりに、三月二十九日上野東天紅の会場に於いて、百十一名の同期生と、当時の担任の高木先生の出席のもとに、盛大に同期会を開催いたしました。

当日は天候にも恵まれて、集まった同期生は全員年齢が六十三から六十四歳ですが、あたかも青春のごとき、はつらつさをみながらの、楽しい集いとなりました。途中で舞台の上でのカラオケ大会もあり、また在学中の時の生徒会長 高山氏の挨拶、担任であった高木先生の挨拶、事務局と実行委員からの挨拶、九クラスあった各クラス毎の記念撮影もあり、又永年にわたり同期生の掌握と、これまでの同期会の発展に尽力を注いでこられた事務局の星野氏と辻村氏の両氏に対して、三商同窓会より感謝状の贈呈があり、最高の盛り上がりの中で、大成功の三十一期の同期会でした。

最後に同期会の準備と進行で、苦勞された実行委員の皆様本当にありがとうございました。

三商祭のおしらせ

10月9日(金)
10日(土)



<http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/>

第25期

(昭和33年卒業)生
同期会開催のご案内

日時 平成21年11月23日(勤労感謝の日)

午前11時00分～午後13時30分

場所 東武ホテル レバント東京

(JR 錦糸町駅北口前)

皆様には別途ご案内申し上げますが、たくさんの参加を期待しております。

今回担当の8組幹事一同

【問合せ先】

8組幹事代表 石川 昭

FAX: 045-911-5396

E-メール: akira-ishikawa@tkcnf.or.jp

二十二期の 皆様へ

二十二期 篠崎 清

二十二期同期会は、平成十八年九月に古希祝賀会として、船橋グランドホテルにおいて開催したのを最後に、話し合いにより、以後開催しない事となっております。しかし年齢を重ねるごとに、昔の三商時代を、懐かしむ心が出て来た、というお話を耳にする機会が多くなってまいりました。昨今、同期会ではありませんが、毎年クラス会役員の皆様とは、新年会・暑気払い等の飲み会を開いております。今回の同窓会報は六十部を皆様にお届けしたいのですが、会報は届いたが飲み会の連絡がないとか、会報を読んでみたい、飲み会にも参加したい等というご友人が居られましたら、私宛ご連絡いただければ善処いたしますのでよろしくお願い申し上げます。お互い健康第一、体に注意してまたお会いしましょう。



TOKYO MARATHON 2009

東京マラソン 2009.3.22 開催

東京マラソン感想 (完走)



二十八期 小林 慎典

第三回東京マラソンは、三月二十二日 東京都庁をスタート 東京ビックサイトをゴールとする四二・一九五キロメートルである。

参加者は抽選により選ばれた、三万四千九百七十一人 (内 マラソン 三〇、一四五人 十キロメートルや車いす等 四、八二六人) この人達が午前九時十分 一斉に東京都庁前をスタートするのです。

「今日の天気はどうかかな？」と天気を気にしながら家を六時二十分に出て、新宿に向いました。既に新宿駅のコンコースはランナーや応援の人達でいっぱいです。早目にトイレと着替えを済ませ、手荷物を預けスタート地点に(尚手荷物は約五十台のトラックによりゴール地点まで運ばれます)

スタート順は申込時の目標タイムに合わせてゼッケンナンバーが決められていて、速い順にA〜Kまで。私はG(目標タイム五時間以内)だったのでやや後方に並びました。因みに、招待選手、エリート選手(実業団選手等)は最前列です。

九時十分スタートを知らせる号砲と花火。凄い人数です。ぜんぜん前に進めません。ほとんど歩きながらやっとスタートラインに到着したのは七分後でした。

いよいよ四二・一九五キロメートル完走に向けて挑戦です。

なるべくペースを押えて行こうと自分に言い聞かせてスタートしました。

新宿の大ガードく市ヶ谷く飯田橋く日比谷公園(ここで十キロメートルの人とは別れ)く東京タワーく増上寺く品川駅(折返し)く日比谷公園の交差点を右折すると中間点です。二時間二十分位、いいペースだ、ちよつとオーバーペースかな。銀座四丁目の角を左折すると少し雨が降り出しましたが、沿道は凄い人で、ここで(アップル前)友人の応援を確認し元気を貰う。

銀座の中央通りを走れるなんて、夢にも思っていなかったので感謝しながら、日本橋く茅場町を右折し浅草へ、雷門を折返し再び銀座へ。四丁目の交差点を左折し歌舞伎座の前を通り、築地四丁目を左折すると、三五キロメートルここからがきついです。三商の先輩(杉本、岩瀬両氏)が青い色の校旗を持って応援 大きな力を頂きました。あらかじめ通過タイムを十三時十五分頃と予告しておきましたが実際は十三時二十分でした。その先三六キロメートル手前(入船橋の上)で三商同期(二十八期)の応援を頂き、背中を押して貰いましたが、この辺りから風雨を激しく感じました。橋のアップダウンにちよつときつくりなり、足が思うように前に出ません。「頑張れ」と自分に言い聞かせ、三八キロメートル手前で三商の後輩が飲物・バナナ等の差し入れを持っていてくれましたが、強風で差し入れ用の発泡スチロールの蓋がコース内に飛んでしまつてあわてて拾いましたが、これはびっくりしました。でもあと四キロメートル、最後の力を振り絞り無事ゴール。五時間三分(十四時十三分)でした。目標タイム

(五時間)を切れなかったことは悔やまれますが、四二・一九五キロメートル。日本有数の歓楽街や繁華街を通り林立した高層ビルの間を進み、東京タワー、雷門、歌舞伎座を見て走れたこと。また悪天候にもかかわらず応援に来て頂いた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今こうしてマラソンを走ることが出来るのは三商時代三年間卓球部で心身共に鍛えられた成果と思っております。ただ、スタートするまでは体調の管理、風邪や怪我等しないように心掛けましたが、いろいろな方に応援をお願いしていたこともあり、かなりのプレッシャーがありました。来年も機会があればぜひ参加したいと思えます。その時はまた暖かい声援をお願いします。

最後に誰かが言っていました「悪天候の中、四二・一九五キロメートルよく走った自分を褒めたい」です。

体育祭

『Let's get your love! 勝利を掴め若者たちよ!』
2009年6月5日(金)



東京都立第三商業高等学校 (全日朝)



蘇る漱石の『それから』

これは情報化社会の楯の両面とでもいうのだろうか。ケータイ生まれの横書きの小説が流行るかと思えば、その一方著作権の終了した明治・大正期の小説がインターネット上で無償で読める今日この頃である。パソコンを開けば絢爛豪華、紅露・陽漱らが居並ぶ。そのなかから、夏目漱石の『それから』を読み返してみる。愛における世の掟と主我という漱石が自らの文学に課した命題を、この

際反芻してみようと思っただけだ。というの
も他でもない、われらが北村太郎（詩人、
三商第八期卒業生）がかつて五十三歳で田
村隆一（同）の妻と恋に落ちた顛末を、詩
人で作家のねじめ正一が描いたモデル小説
『荒地の恋』（平成十九年文藝春秋刊）に
触発されたことである。（平成二十一年
四月記、文中・敬称略）

漱石の『それから』に出てくる主人公代
助は最高学府を出ていながら、事業家の父
の庇護で無為徒食の日を送る身。彼はかつ
て愛していた女三千代を友人の平岡から請
われてふたりを娶すが、歳月を経て夫婦仲
に隔たりを生じている様子を知るに及んで、
過去の自己欺瞞を悔い、三千代を奪うこと
を決意する。三千代もこれを受け止めるが、代助は
平岡から絶交され、病いの三千代とも会えないまま、別に
父親の勧めで商略縁談も断って仕送りを止められ、職を探
しに街へ出る——というあらましの筋である。

五十越して親友の妻に熱愛

生活は破綻するも詩が沸騰

さて当の『荒地の恋』のほうだが、三人の男女間という
同じ愛の極限状況でも、こちらは実話小説である。詩人北

村太郎（本名・松村文雄）を中心に、物語は展開する——

北村は、新聞社の校閲部勤務が長い。妻子を水の事故で
失った後再婚し、子供たちも成人して、安穩に暮らしてい
た。そんなある時、ひよつと心の中でささやくことがあつ
た。「たつた、これだけかあ」と自問しては、「いいじゃ
ないか、これで」と言い返す。

北村にとつて「たつた、これだけかあ」には、二重の意
味があつた。以前、現代詩文庫（思潮社）からそれまでに

大恋愛を糧に開花

明治来の文学史貫く命題

蘇った衰弱詩人



第十期・柴田 栄一

書いた詩を集大成した『北村太郎詩集』を出した時、収録
詩のあまりの少なさに「荒地」以来の仲間の三好豊一郎か
ら「たつた、これだけかあ」といわれた記憶。もうひとつ
は、二十余年かけて手にした今のささやかな一家の幸せへ
の「たつた、これだけかあ」。詩を書くことは妻子持ちの
勤め人にとつて余技にとどまり最早、本分たり得なかつ
た。詩作と家庭への二つながらの空疎感は、根っここのこ
ろで繋がっていた。寡作と小成と。そんな自分を、彼は衰
弱詩人と呼ぶ。

そして「いいじゃないか、これで」。その諦めに似た独
り言が、ふいと訪れた一女性との邂逅から粉微塵と砕け散
る。天命を知るといふのか、五十の坂を越して北村は破倫
の愛に墜ちた。家を出、ふたりだけの巢を営む。相手は、
田村隆一の妻。北村と田村とは三商四年生の時からの親友
で、戦後の詩界に光芒を放った同人詩誌『荒地』をともに
旗揚げした仲である。偶然といえば偶然、彼女は明子とい
う北村の死んだ最初の妻、学生時代からの恋人房、たつた
が、それと同じ名前だった。

余聞

『荒地の恋』

片方、妻を獲られた田村はといえば、す
でに北村より十年早く第一詩集を出し、天
性の詩人との評が高い。「詩のためにだけ生
きている男」。それも「殺し文句の詩人」
と、著者のねじめ正一は称える。「殺し文
句の詩人は女を殺すだけで愛さないのであ
らう。大切にしているのは言葉だけである。
言葉に較べたら、自分すらどうでもいいの
である」と。なのに「言葉なんかおぼえる
んじやなかつた」と、田村は自らの詩に詠
う。自己陶酔、それとも自己眩惑の表白だつ
たのであろうか。感受性豊かなその妻・明
子。「田村は私を苛めるのよ。それも言葉
で」と顔を覆う明子に、北村も覚えぬ涙を
流し愛を告白する。日の盛り、有楽町の新

聞社に近い公園のベンチが灼けつくようだった。
そうこうしても、四十年來の付き合いになる北村と田
村。彼らと明子との三人の間に互いにほかの二人を失いた
くないという気持ちが横たわり、それらが絡み合つて時に
また照り翳りをもたらした。北村はその十年の間に九回、
単身或いは明子と居を転々とするが、田村はその間、明子
と縋りを戻したり、北村を自宅近くに移って来させたりす
る。
寂しがり屋の田村は酔っ払うと、駄々っ子のようにな
る。「こいよ、なあ」。それは、三商の頃から耳慣れた言

葉であった。これを聞くと不思議に逆らえなくなる。その電話の声で田村から呼び出され、ろくすっぽ呑めない北村も臍を固めて、明子を中に三人の底知れない地獄の酒盛りが始まるのだった。

しかし北村太郎は、朋友の妻に恋慕し勤めも家も捨てるというそうした非日常的な日々の中で、俄然詩を書き出す。自由を得た魂が修羅場を乗り越えて、言葉が溢れ出した。北村が生涯に出した単行詩集（全集、叢書や選集のたぐいを除く）は十二冊になるが、平安な家庭を営んでいた前半生のはそのうちの三冊に過ぎない。芸術選奨文部大臣賞を始め晩年不動の評価を受けたのも、苦悩の日々との背合わせの所産に他ならなかった。妻への仕送りが重くのしかかり、二間の木造二階建てアパートの暮らし。風呂屋へ出かけたものの気がつくとき湯銭が足りず引き返すといった懐具合を、受賞賞金が潤した。



北村 太郎(1922~92年)

旧制府立三商時代に詩を始め、東大仏文科卒。29歳の時、最初の妻と息子を海難事故で亡くし、その詩には死の影が漂う作品が多い。

そんななかで、多作になってゆく詩のなかに恋人へのメッセージをこっそり潜ませたりする遊び心もあった。あの行の何字目から斜め左にずっと下がってゆくと、「あさちゃんきみをあいすかわいいひと」というふうに通れる（詩・冬を追う雨）といった具合。上げ潮に乗って余裕すら生じたことだろうが、戦争中、米軍暗号通信の傍受・解読に当たっていた海軍エリート士官だったいかにも北村らしいともいえた。

斯くて、初老期に臨んで既成の道徳を抛った北村。時が

過ぎて、「パパ、帰ってきてくださいな」と電話口でいう別れた妻に「人の心は変わるんだよ」と告げる。その北村や明子の身边を取り巻く加島祥造（三商八期）、鮎川信夫ら旧「荒地」の仲間たちの大人の友情。さらに無名の若い人々や市井の婦人たちの差し延べるそれとない善意が、この長編の随所に温かさを醸し出す。やがて北村は血液の癌を公表するが、最後まで死と生をめぐる詩を書き続けた。



田村 隆一(1923~98年)

明治大卒。三商時代には北村と同級生だった。エッセーの名手で、生涯5度の結婚も経験した。

明子は田村にとって四度目の妻。その後田村が「五妻（ごさい）」と呼んで愛した悦子がおり、田村の葬儀に喪主を務めた。悦子は告別式の日、弔問客から「お疲れの出ませんように」と言葉をかけられると、こういった。「田村がいらないから、私、もう疲れないと思うの」。

これは明子との一件の起る以前になるが、田村が北村の出した詩集に寄せた跋文のなかで書いている。「北村太郎とは因縁が深い。きわめて深い。このぶんでは、来世までつづきそうである」。いまふたりはあの世でも、詩と酒を共にしているだろうか。「いいじゃないか、これで」と。

歴史は繰り返す

万葉のその昔から

文壇に咲く恋愛沙汰

紫草のほへる妹を憎くあらば人妻ゆゑにわれ戀ひめやも

高貴な色の紫草のように、美しいお前……。そのお前がちよつとでも憎いのなら、過去はどうあれ今はもうほかの人の妻なのに、何で私がこれほどまでに恋い焦がれたりしようか。こうして危ない橋を渡ろうとするのも、可愛いお前が放っておけないからだよ——といったところであろうか。現存する最も古い和歌集である万葉集。その巻第一に出てくるこの歌。どうしてどうして、なかなか意味深長である。

詠み人は、天智天皇の弟で皇太子でもある大海人皇子。お前と呼ばれたその相手は、歌人額田王。彼女ははじめ大海人皇子と結ばれ一女を生んだが、今は天智天皇に召されてその寵愛を受けている身である。そうした状況のもとで、この一首は皇子が複雑な心持ちを直接に力強く表して、万葉集中の傑作の一つと後世、歌人斎藤茂吉は見てとった（昭和十三年刊、岩波新書『万葉秀歌』）。大海人皇子は、後の天武天皇。天智・天武の両天皇は兄弟でいながら、それぞれ贈り名の通りに智略と武略の人で、古代日本の興隆期をもたらした。

ところで北村や田村とともに三商八期の「荒地」のメンバーの一人だった加島祥造も、五十代半ばで恋愛のため家庭を飛び出していた。同一の境遇にあった北村太郎も同じ横浜に住んでいたの、正月に開いている店を探して中華街をさまよい「新聞社の校閲部長のお前と、大学教授の俺が、元旦からメシも食えないっていうのも面白いなあ」といったら、「そんなこと面白いかな」と怒っていたと打ち明ける。

加島が学者をしていて忘れていた詩を再び書き始めたのも、どうなつてもいいと自由になつたその頃だった。今、彼の書いたものが都立高校の入試にも出題される売れっ子ぶりだ。朝日新聞に勤務していた頃の北村さんは、いかにも実直な校閲マンといった風貌だったが、退社後の新聞紙上や雑誌で拝見するのは、風雪を経た紛れもない一人の詩人の面差しであった。

時代はぐつと遡るが、五千円札の樋口一葉。一葉が小説

の教えを受けたのは明治中期、朝日新聞の専属作家として名を馳せた半井桃水からで、一葉は恋心を募らせていたが二人を巡る悪い噂が立ち、自分から身を退く。これが後になつて、哀切な恋という一葉文学の骨格を形成することになる。彼女を当代屈指の作家に押し上げた「にぎりえ」のなかに出てくる結城朝之助は、桃水をイメージしたものとされる。

母と妹を抱えて生活のために、当時の女性に似合わず小説家を志し、恋にも悩んだ二十四年の短い生涯であったが、短編ながら近代のまだ夜明け前を生きた女たちを見据えた「たけくらべ」「十三夜」など二十二編の小説を遺す。

話変わって明治四十一年、夏目漱石門下の青年文士森田草平が令嬢平塚明と心中未遂のうえ、雪の塩原温泉尾花峠を徘徊中に保護され、世人を驚倒させた。二人は講座「閨秀文学会」の講師と聴講生として恋仲となつたもので、明は後の女性解放運動家平塚らいてうその人である。

森田草平は翌四十二年、自らの情死行を小説「煤煙」として告白、漱石の好意によって東京朝日新聞に連載した。これが知識層の恋を通じて近代の社会的不安を描く作として評判を取り、当人は危機を一転したばかりか一躍、文壇に確たる地歩を得た。他方、事件を経て目覚めた平塚らいてうが雑誌「青鞥」を発刊したのは四十四年。その創刊の辞である「元始、女性は太陽であった」は、女権宣言として永く今日に繋がっている。

世界恐慌が日本を直撃した昭和五年。殊更暑かつた夏のさなか、世間を驚愕させたのが文壇の重鎮的存在、谷崎潤一郎と佐藤春夫の「細君譲渡」事件だった。当時関係先に送付された挨拶状は、手短に千代の谷崎との離別、佐藤との結婚という事実だけを告げ、千代を中に挟んで三人が連署した。

佐藤は谷崎と耽美主義文学のライバルとして互いに認め

合う間柄であったが、谷崎夫妻の間が不仲となつて、千代への同情が愛情となり、彼女もそれを待む気持ちになつたのだ。そこに至る遺る瀧ない気持ち、佐藤が「あはれ 秋風よ 情あらば伝えてよ」と詩に託した「秋刀魚の歌」は、有名だ。翻つて谷崎はこの件を弾みに新境地の基盤を獲得し、やがて意中の人妻・松子と再婚、その恋愛体験を作品に昇華させた『春琴抄』など女の美しさ、妖しさを描いて、谷崎文学が「第二期」といわれる絶頂期を迎えることとなるのである。



『荒地の恋』の表紙

川田は大正、昭和の斯界に重きをなし、戦後は東宮の作歌指導も務めた。この恋の遍歴により老大家は抒情傾向を深め、ひととき先進んだ歌風へと達するのである。

凡そ恋愛歌の数は夥しいが、恋の句となれば何としても鈴木真砂女の「羅や人悲しませず恋をして」に止めを刺す。安房鴨川の老舗旅館の娘として明治生まれの真砂女。その育った外房の荒海に重ねて「あるときは船より高き卯波かな」と詠つたように、波瀾の人生を歩んだ。一旦は他家へ嫁ぐが、別れて実家に帰る。その後、急死した姉の夫と再婚し旅館の女将となる。程なく、泊まり客だった七つ年下の海軍士官と運命的な恋のみちに。相手にも既に若妻があつたが、折りも折り日中戦争。九州の大村に転属し、真砂女は後を追って出奔する。

戦争が終わり銀座の路地裏に女手一つで小料理店を開くようになるが、彼とは病死するまで四十年の間に一年だが同棲も果たす仲が続いた。借金を返すのに九年かかったが店は繁盛し、平成十五年真砂女も九十六歳で逝つた。ほかに「死なふかと囁かれしは蛍の夜」「罪障のふかき寒紅濃かりけり」など俳壇を超えて知れ渡つた恋の句が多い。

同じ個性の強い先駆的な女流俳人でも、「足袋つぐやノラともならず教師妻」と詠んだのは杉田久女である。ノラは夫からだ人形のように愛玩される。自我の目覚めから家を出てゆくイブセンの戯曲『人形の家』の女主人公。久女の場合は当時評判だったこの社会劇に做う踏ん切りもつかず、高濱虚子門下の天才といわれながら最期まで不遇であったのが真砂女と対蹠的である。

以上、文壇恋愛事件史とでもいったところだが、思いつくまま印象の強いものを挙げたに過ぎず、無論これに尽きない。ただそこに一貫して読み取れるのは、退つ引きならぬ愛の本然であるが、それとともに中心人物たちがそれを心の糧とし、さながら魚が水を得たように、また籠から放たれた鳥の如く文学的飛翔を果たしたことであろう。彼ら、彼女らは愛の懲らしめとともに愛の賜物として、苦惱

戦後程なく昭和二十三年、歌人川田順が年下の弟子鈴鹿俊子との恋愛に悩み、家出して自殺を図り「老いらくの恋」と騒がれる。「若き日の恋は、はにかみておても赤らめ、壮子時の四十歳の恋は、世の中にかれこれ心配れども、墓場に近き老いらくの恋は、怖るる何ものもなし」と、その自らを奮い立たせた歌から「老いらくの恋」が新聞の見出しにもなり、時の流行語となつた。順六十七歳、俊子は三十九歳、元大学教授の夫人で、子も三人あつた。結局二人は結婚し、昭和四十一年に彼が長逝するまで添い遂げる。

しながらそれを享受したのであり、悔いはなかっただろうに違いない。北村太郎がたどった「荒地の恋」もまた、これらの延長線上に永く記憶されてゆくこととなるであろう。

因みにこちらのほうはフィクションだが冒頭に掲げた漱石の『それから』の結末も、事態が暗転、平岡側の報復と三千代の生死さえ暗示させるものの、代助自身は心機一転、それまでの有閑階級的な生活からの訣別を深く自覚するに到るのである。

それはそうと、文学はなにゆえに恋愛を追求するのか。それは人生いかに生くべきかという問いが、恋愛の過程に最もヴィヴィッドな形で現れるからにはかならない。優れた文学は、「人の道」と「個の誠」の相剋のうちに、緊張感があり、感動するからであり、人生を変革させる。さらに文学が読む人にとって面白いのは、興に入ると作中の人物となつて、まるでわがごとくのように追体験するからである。身に覚えがある人は、自らを重ね合わせて一喜一憂するだろう。そしてかの情熱の詩人バイロンがいうように、時として事実は小説よりも奇なのである。

『荒地の恋』を書いたねじめ正一は「北村さんの生き方にひかれ」て「書きたかった」といい、書き終えて「実に誠実な普通の人でした」と振り返る。『荒地の恋』は平成二十年十月、第三回中央公論文芸賞を受賞した。

『付記』『荒地の恋』は年齢を重ねてからの一途な恋への憧れもあるのか、本好きの年配男性を中心に支持を集めて、ロングセラーを続けているとのこと（平成二十年十月六日朝日新聞夕刊）。「良書の要約というものは、すべて愚劣なものだ」との戒め（モンテーニュ）をも顧みず、同窓会報前号『含羞の系譜——旧制三商の青春群像に見る』の補完の意味で採り上げました。なお、北村太郎氏の自伝ともいべき『センチメンタルジャーニー——ある詩人の生涯』（平成五年草思社刊）及び平成十六年十三回忌に当たって故人を偲んだ共著書『北村太郎を探して』（北冬舎刊）なども参考にしました。

前田夕暮・作詞 山田耕筈・作曲
三商校歌 二人を結ぶ点と線

二十五年 柴崎 晴雄

一・校歌あれこれ

本年も恒例の「東京校歌祭」が十月三日開催の予定とされている。会場は日比谷公会堂である。校歌を高らかに歌い上げる機会としては、学校関連の各種式典やスポーツ試合等、フォーマルな式典の挙行のほか、定期的な同窓会合（総会、各期同期会、クラス会）等、年間を通じ、複数回は歌う機会がある。これらの定期行事に参加しないまでも、数年ぶりに旧友と歌う機会に遭遇すれば、いつでも口ずさめて当然である。

♪ 都の空は明けたり今

♪ 希望は燃ゆる若きわれら

当校歌は昭和八年二月に、著名な作曲家山田耕筈氏によつて作曲された。（作詞 前田夕暮）この大作曲家「山田耕筈氏」と私の奇妙な出逢いがあったのも、日比谷公会堂であった。このことは後段に記す。



山田耕作（後に耕筈）
（1886～1965）

別表① 山田耕筈の作曲した校歌・学校名

- 「都立九段高校」「都立江北高校」
- 「都立豊多摩高校」「松本高校」
- 「私立駒込中学校」（駒込高校）
- 「静岡高校」「一橋の歌」（一橋大学）
- 「龍谷大学」「明治大学」「日本大学」
- 「東京女子大学」「大正大学」「東洋大学」
- 「同志社大学」「関西大学」「駒沢大学」
- 「京都女子大学」「八幡大学」その他多数

例年の校歌祭会場で配布される参加校とその校歌の載ったパンフから繰り取って見ても、山田耕筈氏（以下、敬称を略す。）の作曲による他校の校歌の主なる作品は、別表①のとおりである。これらはその一部に過ぎず、列挙すれば実に五百曲の多くを数えるといわれる。

本年は明治政府を開府して通算百四十一年目にあたるが、校歌は明治初期に唱歌教育の一環から学校関係者によつて生み出されたといわれている。このことが高校や大学で学生歌、応援歌、寮歌、校歌となつて発生し、軍歌にまで進展していく。いわば国策によつた経緯から、各校校歌は終戦の一九四五年まで存続する。

二・わが校の校歌の原譜はどこに？

終戦後に到り、GHQの民主化政策により、戦前・戦中期の校歌はあらためて文部省の認可申請を要することとなり、歌詞に修正をすべき指導によつたため、詞の一部が改訂された。

当校の校歌も、

「♪ 帝都の海の門にありて：」が

「♪ 東都の海の…」へと改訂を余儀なくされた。この箇所改訂に先立ち、作曲当時の原符が昭和十八年七月の都政施行により、左のように改訂されている。

♪ 都立第三商業 ここに挾るや：（旧）

♪ 都立第三商業 ここに挾るや：（新）

その一方で越中島地区は、大正の末期から多年に及んだ東京湾く鶴見河口に至るウォーターフロント開発、インフラ整備と大規模市街地再開発による周辺地区の高層化により、「♪ 富岳の雪を望む窓辺…」は、既に実状が大きく変貌していても、私たちは名門校の校歌として何ら疑いもなく高らかに歌い続けている現実がある。

ここで些か留意を要するのは、各種同期会・クラス会等にて斉唱するために、幹事長が身近に備えていた校歌歌詞を人数分コピーして、会場へ持参、安易に配布しているが、歌詞の誤字脱字の点検未済のまま配布してしまうことの無いよう念のためチェックした方がよい。一瞬の使用のためとはいえ、私自身が後刻気付き、後悔したこともあるでは原譜はどこに保存されているか。「原譜」とは作曲者側の初出し時の出版社が持っているものとされている。戦後

に再申請されたとすれば、新文部省に保管されている公算が強い。山田の作品には、これら多数の校歌はさておき、主なレパートリーは誰もが口ずさめる“抒情歌”に勢力が注がれた。

別表②は山田作品のごく一部にすぎないが、大正モダンズムを反映して、多くの詩人が傑出した中であって、北原白秋とのコンビによる作品が多数ある。この段階ではまだ山田と作詞家の前田夕暮を結ぶ接点は浮かんてこない。

別表② 山田耕筈の作曲による主なる抒情歌	
あわて床屋	(♪春は 早うから… ♪チョッキン チョッキンなア [北原白秋・詞]
赤とんぼ	(♪夕やけ小やけの 赤とんぼ… [三木露風・詞]
からたちの花	(♪からたちの花が咲いたよ… [北原白秋・詞]
この道	(♪この道は いつか来た道… [北原白秋・詞]
中国地方の子守歌	(♪ねんねこしゃっしゅりませ… [地方民謡・詞]
砂山	(♪海は荒海 向こうは佐渡よ… [北原白秋・詞]
ペチカ	(♪雪の降る夜は たのしいペチカ… [北原白秋・詞]
待ちぼうけ	(♪待ちぼうけ 待ちぼうけ ある日せつと 野良稼ぎ… [北原白秋・詞]

三. 初心は声楽家を目指した耕筈氏

大作曲家山田耕筈については今更に多くを語る必要はないが、大正、昭和にかけて、自らのピアノ伴奏により自作品を、当時あっては一世を風靡したテノール歌手の藤原義江（一八九八〜一九七六）とコンビを組み、頻繁に日比谷公会堂で公演した。同会場では毎回の聴衆が二階の上段まで鈴なりの状況であったという。大正十四年には、適時に電気吹込みシステムが完成したこともあって、レコード製作、ラジオ放送開始（NHK）と、メディアに実用化されたことが音楽界の歴史を塗り替えて行き、この二人の演奏会は多いに大衆へ浸透していった。

山田の作品としては、いわゆる純音楽のジャンルに属する作品は、交響詩『曼陀羅の華』『交響曲かちどきと平和』位でしかなく、オペラ作品は『黒船』ほか数曲が遺されている。

『黒船』は、去る六月二十一日、横浜港開港百五十年祭

の記念イベントとしてみなとみらいホールにて、久しぶりに上演された。

音楽芸術は、パートナーである作詞家との共同作業のもとに創作される。譜面上に音符が描かれても、これを天に翳したり、火に焙り出しても音は出てこない。この媒体として器楽の伴奏のもとに歌手が発声して歌うことにより、はじめて音楽芸術として具象化される。つまり作曲家は作詞家から詞が創られるのを待つ立場にある。

四. 三商校歌に引用された「一音符一音主義」

前記の抒情歌等にも共通する山田作品の作風は、各種の校歌に採用された作曲技法の「一音符一音主義」であった。しかし北原白秋作詞による主なる校歌作品も数多く、延べ数百曲の及ぶと云われる。

「一音符一音主義」の定義付けをすれば「言葉のアクセントそのままに、一音符一音」をごく自然に旋律付けしている。極端に示せば、

♪みつ やつ こつ の空は…
♪きつ ぼつ おつ に燃ゆる…

というようにスタッカートで歌う。加え、各二小節目と四小節目に、

♪若きわれら、担ふわれら、築くわれら、継げるわれら
と、計十二ヶ所に「われら」を連呼しているが、歌詞に連呼型が多いのも校歌の特徴である。

山田が東京音楽学校（現・東京藝大）声楽科を卒業後にベルリンへ留学し、作曲をカール・オルフに師事した。その由縁は当時では東京音楽学校に作曲科の科程が開講されておらず、不本意ながら声楽科に籍を置いたのである。留学して作曲をオルフに師事したことから、山田の作風はオルフの影響によったことがわかるのである。

オルフの代表作に、世俗カンタータ（交声曲）『カルミナ・ブラーナ』があるが、この作品の「一音符一音主義」で書かれた特徴ある作曲技法を三商校歌にも引用した典型例である。

『カルミナ・ブラーナ』が本邦初演されたのは昭和三十一年で、二度目の演奏には私も日比谷公会堂で六年後の三十二年二月十三日にN響四二〇回定期、ウィルヘルム・シュヒターの指揮で聴いた。恐らく山田耕筈氏も臨席していた

に相違ない。

著名な作曲家は、誰しも優れた詩人の作品に自らの手曲を付し、広く多くの人々に歌われたのが究極の願望である。例えば、シューベルトの『野薔薇』のごとき世界的な名曲が代表的な例である。たぶん山田も偉大なゲーテの詩に自らがパートナーとなって、作符することを夢見たことであろう。

五. 藤原義江との競演後、山田は指揮者へ転じる

しかし、山田は大正昭和（一九二〇年代）を通じて日本の近代音楽の作曲史上にあつて、歌曲を中心に国産唱歌を大衆へ普及させ、活躍した滝廉太郎、本居長世、広田竜太郎、中山晋平、成田為三らの中で山田が抜きん出て独り舞台であつたとされる。

また、その一方で、日本交響楽協会（後にNHK交響楽団に発展した。）を結成、いわゆる有料コンサートの先駆けとしての功績も大きい。

作曲活動を頂点に、山田は指揮者へ転じた。昭和十一年からN響が常任指揮者としてジョセフ・ローゼンストックをドイツから招聘し、定期公演を定着させるまでは、貴志康一、近衛秀麿、尾高尚忠、山田耕筈といった邦人指揮者たちが代わる代わる起用されていた。このように山田の才覚の広さを窺い知ることができる。

六. ふたりの音楽家と 私の奇遇な出逢い

オペラ及びリート歌手としての藤原は、我が国の音楽史上にも多大な業績を遺した声楽家であった。われらの名テナーと呼ばれ、藤原歌劇団を結成、初めて米全国各地への海外公演（一九五七年）を行ったことである。



名テナー 藤原義江 (1898~1976)

山田も藤原に先じて自作の演奏会をカーネギーホールで演奏した実績（一九一七年）がある。藤原は容貌、声量と

も申し分なかったが、晩年は病いを患い定宿の帝国ホテルで最期を送った。

この藤原義江と私の奇妙な出会いについて云えば、先の『カルミナ・ブラーナ』を聴いた四ヶ月後の昭和三十六年六月七日のこと。駿河台の全電通ホールにて、近く上演予定の歌劇『ジャンニ・スキッキ』（ブッチーニ作曲）と『スペインの時』（ラヴェル作曲）の公演（必ず二本立てで公演）に先立ち、プレトークショウが開催された。このショウの終演後、ロビーにラフな姿で現れた藤原に私が向かい合い、二、三の質問（内容は忘れた。）をした記憶がある。意外に身長は私よりも五、六cmほど低かった。

オペラ歌手を志望した藤山一郎は、美声でも身長が五尺そこそこであったから無念にも歌謡曲歌手に転じた。藤原よりも山田耕筈の方が遥かに長身で、オペラ歌手の資質はあったであろう。

この藤原と遭遇した直前の五月二十六日には、日比谷公会堂で東京交響楽団の定期演奏会があった。指揮は上田仁。曲目は安部幸明作曲『交響曲第二番』が前半に置かれ、休憩を挟んで後半に二曲の組合せであった。不運なことに私の座席の三席前に背の高い大男が座っていて、ステージ上の指揮者とオーケストラが半分以上スッポリと視覚を遮られたまま一曲目が終演した。

コンサートは聴覚だけではなく、視覚及び皮膚全体で体感するもの。しかもステージ全体を見渡せなければ感動は半減する。そこで私の思案は、十五分間の休憩を待ち、思い切って『おじさん、すいませんが少し頭を下げてくれませんか』と願ひ出るつもりでいた。

拍手とともに第一曲目の交響曲（本邦初演）が終わり、インターミッションのため観客は一齐に席を立ち、ロビーかバルコニーへそぞろ歩きで向かうのだが、私にとつては問題の三列前の大男が席を立ち、クルリッところらへ顔を向き直ったやいなや、「アッ」と驚いた。その長身の男性こそ我が三商校歌の作曲者山田耕筈氏であったのである。つまり藤原と対面した後の僅か十日そこそこの間に二人の巨匠に出会ったのは偶然としか云いようがない。

七. 日比谷公会堂の黄金時代の終焉

この日のコンサートの休憩後は、山田は座席に戻らず、

さつさと身支度をして会場を出て帰宅した様子であった。結果として私の要求は自然の成行きにより解決したので、無礼ながら独断で、三列前の山田の座席跡へ移席した。お陰さまで後半の演奏はゆつたりと鑑賞することができた。この日の山田の来場の目的は、後進の新進気鋭の弟子の初演作品の出来栄を単に検証確認のため来場したものであろう。

数々の名演奏を提供してくれたこの多目的ホール、日比谷公会堂の時代も、翌七月にコンサート専用会場として新装オープンした東京文化会館（上野公園）の時代へと移り変わり、上野における黄金時代の幕開けとなった。もともと高度成長に乗じ、近代的なホール（箱物）が各主要都市に続々と新装されていった。

八. 詩人前田夕暮（一八八三～一九五二）の文壇復帰を模索する

校歌の話に戻し、山田作品のパートナーとしての作詞家北原白秋とによる校歌だけでも多数あることは前記した。この段階では、山田と当校の校歌作詞家前田夕暮（本名は洋造）との接点は浮かんて来なかった。前田の作詞家としてのデータ発信が少ないのは、詩人としての業績が目立たなかったのでは？いや、私の調査不足もさることながら、校歌が学校側の委嘱であるならば、詞・曲を分離発注したと推測することもできる。

それでは前田夕暮に三商校歌の作詞の委嘱が届けられた経緯はどうであったのか。また大正モダニズムに溯るが、大正年間の文壇には多数の有名歌人、俳人が傑出したが、同人雑誌、詞歌集も数多く出版された。しかし、その悉くが商業性に乏しいと消えゆくように廃刊へと余儀なく淘汰されていくのが世の常である。このことは現在でも同じことが云える。文壇・楽壇・芸術一般の世界では、子弟関係、同人雑誌相互間の情報・人脈関係・作風の評価、読者のニーズ、発刊時の世相次第では転変を重ねることも茶飯事であった。

前田 透（夕暮の長男）も詩人として活動した軌跡があつて、作品の数においては父夕暮のそれより上回っていたようだ。父の作品を整理し、出版にまで至っている。加え夕暮の作品が本意にも不当かつ挑発的な評価を下され

たことに遠因がありそうなのが記されている文献が最近刊行された。（「大正歌壇史私稿」（ゆまに書房二〇〇八／四／二五刊））

しかし検索すれば夕暮作品もかなりの数に昇るのは出版機関に恵まれなかったこと、一度身を引いて転職したことも作品が陽の目を見なかったことに繋がったようだ。因みに別表③を参照されたい。ペンネームの夕暮とはイメージを異にするポジティブな作品表現である。

ペンネームのイメージに拘わらず、作品に現した構図の一例では、

朝 焼 け

朝焼けのはるばる赤く流れたる……
あかつきの街 上の雪踏み……
町上の 雪まのあたり あかあかと朝焼けの……
ほのぼのと生まれて……朝焼けの雪

水源地帯

朝まだ冷たき 山の五月なり……
太陽を見失いたる空の果て……

この他、「朝焼け」「薄日の木の枝」などでも「夕暮れ」といったネガティブな景観は全く考えず、明るさを象徴すべく、当校歌にも、

都の空は 明けたり 今……
富岳の雪を 望む窓辺……

と歌い上げたのであろう。

別表③ 詩人 前田 夕暮（1883～1951）

九. 白秋と夕暮を結ぶ点と線とは？

山田耕筈は三商校歌の作曲を委嘱された時、最も親密なパートナーとしての一連の校歌作曲の連作コンビの北原白秋に作詞を委ねたのではないだろうか。この頃の白秋は文壇の頂点にあり、体がいくつあつても足らぬ程の売れっ子であった。以下は私の類推である。

耕筈「府立第三商業から校歌を依頼されたから、作詞を頼みたい。」

白秋「書きたいところだが、今、多忙だから少し時間が欲しい。いつまで書けばいいのかな？」
 耕筈「学校側では開校後の第一回卒業式が間近いので、間に合わせて差し上げたい。」
 白秋「努力するが、期限の二月中（昭和八年の）だと急がにやなるまい。」



北原白秋 (1885~1942)

当時の白秋は多忙で、郷里の小田原に引き籠って仕事に集中することが多くなっていたようだ。大正大震災勃発時、震源地に最も近接の小田原で在ったため、史上稀なる大型地震に遭遇し、九死に一生を得た衝動から、文壇は新たな作風を模索してもいた。大手出版界もこぞつて震災特集を組み、出版広告の嚆矢ともなったほどであり、この現象は一種の特需と見たい。

ところで、三商への納期切迫にともない、最終的に白秋が断念し、急遽、前田夕暮作詞として校歌を完成させ、二月七日に三商へ納品された。何と奇遇にも、前田も白秋と同じく小田原が郷里であったことで立地が適ったことが幸いしたのであろう。

前田は自ら創刊した「詩歌」誌が不本意ながら五年前に廃刊となり、奥秩父の山林へ身を移し、林業へ転職していた。しかし久しく沈黙していた『短歌雑誌』に、「水源地帯」と題して発表した作品が白秋の目に留まったこと、「特需」から白秋が夕暮を呼び寄せた気配があったこと等、大震災を契機に小田原へ帰郷を促し、夕暮と同郷の好しみが結実して、急接近したようだ。（写真下参照）ここで白秋の意を汲み、代わって三商校歌を夕暮が急ぎ書き上げたことは疑いの余地もないであろう。

そうだとすれば既に答えは出たに等しい。

こうして耕筈と夕暮の「点」は解明できたが、「線」（山田との面識）が結実したかは、山田耕筈がいくつかがご当地ソングの作曲（松島音頭、伊東音頭）がてら、熱海

ニューフジヤホテル別館が開業当時（昭和二九年）に、著名な文化人達の情報交換の場として屯するアジトであったとも伝えられることから、面識可能であったかも知れず、検証までには至らなかつたまま筆を置く。

東京クラシック愛好家協議会
 副会長 柴崎晴雄



写真左より3人目が夕暮、長男透を挟んで白秋が並ぶ（大正12年8月塩原にて）

参考資料「NHK交響楽団四十年史」

同 「初めての音楽史」

（平成二十一年四月十日 音楽の友社・刊）

第十七回東京校歌祭のご案内

日 時 平成二十一年十月三日（土）

場 所 日比谷公会堂

会 費 無料（少額の交通費を支給）

集 合 午後二時（少し練習をする）

出 演 三時半頃

集 合 場所 日比谷公会堂階段の下広場

服 装 三商の幟が目印

＊終了後有志で反省会を行います。

（会費は概算四〇〇〇円）

一〇〇人の大合唱を目指しています。

大勢の方のご参加をお願いします。

校歌祭委員会

校歌祭委員 杉本 光男

校歌祭委員会は、十月に行なわれる東京校歌祭の出場の準備に、一年間を費やしています。

まず、東京校歌振興会（出場校が加盟している団体）の会合が年数回あります。そして実行委員会の会合も四〜五回あります。これらの会合に出席しています。この実行委員会で具体的な話がされます。

この数年で参加校が減り、最近の総予算は二百万円弱で行なわれています（以前はもう少し多かつた）が、なかなか厳しい状態で運営が行なわれています。

参加校それぞれいろいろな事情があり、参加が出来なくなる学校も増えてきているなか、今年は第十七回校歌祭が行なわれます。三年後の二十回を記念していろいろな企画を考えています。先ずは出場校を増やす運動をはじめたいです。また記念誌の発行なども考えています。

我が三商は、一商と共に第三回から参加をしています、今年で十五回の出場になります。出来るだけ多くの参加者を募ろうということで、百人を目標に毎回頑張っておりますが、いまだに達成していません。

校歌、応援歌を知らない人も多くいます。我々はちゃんと習った記憶がないのですが、なぜか知っていました。やはり母校の校歌、応援歌はいいものです。それを大勢で、しかも日比谷公会堂で合唱できるなんて素晴らしいことです。今年こそ百人を達成したいものです。皆様のご参加をお願いします。



未来構想委員会について

二十期 河原 啓介

始めてお聞きになる名称と思います。実は、財団法人東京三商会の中にある委員会であり、財団法人東京三商会の設立からの経過について、二十六期古田勝一校友が、八十周年記念特別号の五十二ページにたいへんよく書かれておりますので、もう一度お読みいただければ幸いです。その関連として見ていただくと理解しやすいと思います。

財団法人東京三商会の事業は、

- 一、育英奨学金の交付
- 二、奨学生への生活指導等の支援
- 三、商業教育振興のための顕彰等
- 四、その目的達成に必要な事業

となっております。

その資金は資産から生ずる果実(利息など)の範囲の中で運用することが原則になっております。故三期都築健一先輩が中心になって、大先輩の方々が、四十年以上も永い間資産を守りぬいて運用いただいた行為に驚くと同時に、母校愛の姿に感謝の気持ちでいっぱいになります。私達は先輩の意志を継いで、努力し、着実に後輩に伝えて行かなければいけないと思っております。

ご存知の通り現在の超低金利時代では、果実だけで運営することが出来にくい状態が続いており、根本的に見直し、検討せざるを得ないところに来ている。

天野光芳理事長からのご提案で、運営について決定する委員会を設けてはどうかと役員、評議員会議に提案されました。学校関係六名、同窓会関係六名、合計十二名の委員会です。その委員会名が、未来構想委員会です。第一回は平成二十年十一月二十八日、第二回は平成二十年十二月二十四日、第三回は、平成二十一年二月十九日に開催されました。

た。会議の内容については、財団の資産の減少をいかに防ぐか、又は少なくする方法はないか、具体的な提案が多く出ました。最終的には定款の変更しないで出来る範囲としては、

高校生 月額一萬二千元 一九名
大学生 月額二萬四千元 五名

として五名減、財団職員の勤務日数と給与の削減などにより、年間費用、九百拾万円が約七百万円になりました。その結果、資産の減少を出来るだけ少なくして、極めてゼロに近づける様に委員会として努力して行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。なお委員会のメンバーは別紙の通りです。

平成21年度 財団法人 東京三商会 未来構想委員会名簿

天野光芳	財団理事長/都立第三商業高校校長
柴崎晴雄	財団常務理事/同窓会会長(25期卒)
佐藤俊一	財団理事/都立第三商業高校副校長
若林伸治	財団理事/都立第三商業高校教諭
竹山文男	財団理事/都立第三商業高校経営企画室長
河原啓介	財団監事/同窓会理事(20期卒)
浅野修一	財団評議員/同窓会評議員
杉本光男	財団理事/同窓会事務局長
染谷ひふみ	財団評議員/都立第三商業高校教諭
渡邊秀明	財団評議員/都立第三商業高校教諭
越路正巳	一橋法律事務所弁護士(22期卒、同窓会評議員)
石川昭	石川昭税理士事務所税理士(25期卒)

●●●税のムダ遣いを監視しよう●●●



二十二期 三商会計人会 幹事
萩野 弘康

はじめに

五月三〇日付の衆議院本会議でネジレ国会ではあるが、補正予算が憲法の規定により成立した。麻生内閣では、米国発の経済危機を百年に一度の経済危機と称して十五兆円の補正予算を提案していた。米国では、社員二三五万人といわれるGMが破綻し、破産法の適用申請(事実上の倒産である)し、シティバンク、クライスラーの公的資金の投入等深刻な経済不況に陥っている。

もともと一定のルールのない資本主義、自由経済主義は、生産技術の飛躍的向上により過剰生産となることは、経済学者の予言していたことである。

金融市場においても、各種のファンドが商品化され、オイルなどに投機マネーが大量に参入し、今日の世界的な経済混乱を招いたことは否めない事実であろう。

税の使途は国民の福祉が第一

先進国というか諸外国の予算編成を見ても、基本的には福祉が一番、上位を占めている。無駄な道路より、国民の生活を守るのが国のつとめである。憲法でも(国民の生存権、国の社会保障的義務)「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。②国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」(二五条)と規定している。

当然のことであるが(憲法尊重擁護の義務)「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」(九九条)があり、関係者は忠実に守り、履行しなければならないのである。

失業対策、不況対策は不十分である

就職関連の有効求人倍率は〇・四六だという。一〇〇人の志望者のうち、四六人しか就職できないのである。全体の失業率も5%に近く、単純計算であるが三五〇万人前後の失業者が日本全体で発生しつつあるのである。

自殺者が一日百人に迫り、その多くが失業、企業倒産に起因する生活苦、貧困であると想定される。

企業経営も、世界一と称されたGMの倒産に象徴されるように、正に(百年に一度の経済危機)に直面している。

自動車産業に端を発し、急激な経営悪化に、特に中堅、中小企業は苦戦を強いられている。

わが国の就労者の八〇%近くが中小企業で働いており、中小企業の倒産は多くの失業者を出すことになり、可能な限りの政策、制度の支援を行い、防がなければならないのである。

予算編成にみる無駄遣い

衆議院議員の任期も僅かであり、いずれ解散、総選挙が行われる。与党、野党それぞれマニフェストを作り、国民に信を問うこととなるが、どの政党が政権を担おうと政権与党の政策の中心は憲法を遵守し、国民生活を守ることが最大の責務である。

税の無駄遣いについては、メディアの多くが連日の如く取り上げている。

- ①不要、不急の高速道路
- ②役人の天下り先とされている公社、公団等への巨額な予算付け(衆議院、参議院での厳重な討議、チェックが必要、具体的に使い道の決まっていない補助金などは、四六の基金のうち三〇が新設―四兆三六七四億円―天下り先の高額な退職金など)
- ③国営マンガ喫茶
- ④お笑い講座
- ⑤その他

国民の理解の得られない消費税アップ

「百年安心」と喧伝された年金システムも、国民年金の加入率が六〇%そこそこで制度として極めて不安定である。平均的なサラリーマンの年金積立金は(本人負担、会社、事業主負担)三〇〇〇万円程度と予測されている。従来は標準報酬の六割程度(四〇〇万円のサラリーマンで二四万円程度の年金)が5割となり、四割支給にもなりかね

ず、年金の支給年齢の引き上げの(七〇才支給など)意見さえ出ている。

老人保健の改正(改悪)で後期高齢者の制度が導入されたが、今日の日本を築いてきた先人、先輩、功労者に対して極めて冷酷、冷淡、失礼な改悪である。

税の無駄遣いを放置したままで、消費税アップなどは国民は認めないであろう。税制改正を行う場合も、応能負担等を考慮し、総合的な検討をしなければならない。

むすび

不況対策の一番大切なことは、国民の多くがそれなりの生活ができるようにすることであり、国民も財布があつくなれば自然と消費が向上し、消費の向上は日本企業全体の売上げ増加につながり、景気回復の道が開けるのである。

感謝の挨拶



紫水会会長 久保埜 昭一



このたびは私ども都立商科短期大学(以下母校と言う)は東京都における行政改革の一環として廃校となり同窓会は解散のやむなきに到りました。そして同窓会残余財産の一部を些少なから貴校同窓会へ寄付させていただきました。

省みれば母校は一九五四年(昭和二十九)四月貴校の講堂を拝借して開学式を行い呱呱の産声を上げた。開学はしたものの教室、教官室、事務局室等々全てが貴校からの借用で、その後約一年強の期間を過ごさせていただいた。翌年には貴校川岸運動場(現在の貴校々舎敷地)に母校は木造二階建校舎を新築して以後一九六九年三月まで実に十五年間の長きにわたり貴校にご不便とご迷惑をかけた。その後母校は創立十六年目にして昭島市東町(JR西立川駅徒歩八分)によりやく本格的な校舎を新築し移転した。



昭和45年ごろの短大校舎

母校創草期におけるこの苦渋に満ちた肩身のせまい学校生活の実体は母校一期生のみぞ知る事実でした。かかる事実鑑み貴校への感謝の微意を表すべく貴校への寄付金交付の運びとなりました。本紙を借りて貴校に筆舌しがたい多大の恩顧に感謝いたし私の挨拶とします。

恩師からの一本の電話

第五代前同窓会会長 木戸 隆吉

昭和五十六年頃、一本の電話がかかってきました。受話器をとると、

「木戸君のお宅ですか」

「はいそうです」

「私は今村直人ですが」

「あゝ、校長先生ですか、ご無沙汰致しておりますが、お元気でいらっしゃいますか」

「いや、実はね、今は体が動かなく、歩行も困難で、不自由な体でこまっているんですよ、実は君が不思議な力をもって、いろいろな人を直していると言う事を聞いてお願いしたいのですが、実は生きていた時に、もう一度、千葉経済短期大学の職員さん一人一人に挨拶しに行きたいと思っているんですが、この体では無理なので、なんとか直していただけないか、お電話したのですが」

「然し先生のお宅には、内科医のご長女の方がいらつしゃると伺っておりますが」

「いや娘も諒解しておるから」
「それでは善は急げと申しますので明日おうかがいします」

と電話をきりました。先生は確か齢九十才卒寿を迎えられているのではないかと案じておりました。

早速翌日中央線荻窪駅の新沼にあるご自宅を訪問致しました。奥へ通され、まずご長女の内科医の先生にご挨拶をすませ、先生のご容態を診ました。まず先生の肌は柔らかく弾力性があり背筋はピンとまっすぐに伸びていましたので、私の操法で直ると確信して帰りました。翌日午後五時頃電話があり、「木戸君昨日は、ありがとう、お陰で職員のみなさんと歓談して今自宅へ着きました。ありがとう」という電話を戴きほっと致しました。それから数日後電話があり、お礼をしたいから来て頂きたい旨のご案内でした。

先生はその後九十九才、白寿の年に天寿を全うされ永遠の別れとなりましたが、先生のご恩に報いることが出来たことは、私にとって感無量で、謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げ、三商に尽された貢献に感謝申し上げます、三商があつたればこそ、今の自分があるものと自負しております。



第二代校長 今村直人



木戸隆吉

憧れた先生

十期 荻野 文雄

戦前、わが家は三商の通学路にあたる深川古石場に在った。小学校に登校する道すがら、白皙、長身、凛とした袴姿の広瀬登美江先生と擦れ違った。子供心にも下町庶民にはみられない文化的香気のようなものを感じた。

三商へ入学してこの先生から教わりたいたいと憧れた。わが町でも先生は美人の英語教師として知られていた。

平成三年五月二十五日、十期会総会の席上、世話人福田猛君から、大阪で独り暮らし、ご高齢の瀬川（広瀬）先生と文通を重ねていること、本年四月に大阪に出張した際、先生宅を訪問して喜ばれたこと、三商時代の思い出を懐しく話されたこと、諸君も先生に手紙を出されてはいかが、昔の教え子からの便りは先生の寂寥感を和らげるものとおもう、と言う話があった。

早速、先生宛に手紙を書いた。深川や越中島近辺の消息を誌したものだ。

先生から長文のお手紙を頂戴した。

「お便りありがとうございます。折角とり戻した健康も梅雨時のジメジメした悪天候で又倒れ、今は死にかかっているお魚のように生気がありません。それでお返事もなかなか書けず失礼してしまいました。御手紙いただき昔のことが懐かしく思い出されます。私のことを優しい先生なんて、それは思い違いのようです。いつだったか、私が教室で大声を上げてどなっていると、吉澤先生が来客を連れて通りかかり、あとで私に、この間、文部省の視学官が来て、元気のいい女先生だな、あれなら男の学校で教えられるだろう、と笑っていたよ。と云われ、全く穴に入りたかった。（中略）長い一生には、いろいろな出会いがあった。二十代から三十代にかけて約十数年過ごした三商時代にも楽しい思い出がいろいろあった。段々記憶が薄れていくようですが、つれづれなるままに、昔の思い出を一つ書きました。では又ね。さよなら 平成三年七月十日 瀬川」

お手紙の全文は、先生のお許しを得て、平成三年十月発行の「十期会報」号外に先生と福田君の往復書簡と共に掲載された。

平成十一年七月発行「十期会報」二十六号に福田君の筆に成る先生の訃報が伝えられた。享年九十三歳、昭和五年津田英学塾高等科卒業、大阪女子大名誉教授、教育功労者として勲三等宝冠章授与。

少年の日に憧れた広瀬先生、半世紀を経て頂いたお手紙では又ね。この結びほど老生の心をときめかした一言はない。

三年間を振り返ってみて



第七十六期 森田 智晴

私は、第三商業に入学して自分の人生が変わりました。たくさんの先生、仲間に出会えたこと、そして私の人生を変えてくれた簿記に出会えたことをありがたと思っています。また、第三商業を卒業したことを誇りに思い、同窓会という素晴らしい先輩たちの仲間に入れたことをうれしく思います。

思えば、この三年間、楽しいこともあり、時には苦しいこともあったけれども充実した時間でした。月日はあつという間に過ぎてしまいました。

入学した当時、失礼なことですが、私は第三商業になんで入学したのか、なにがしたいのかが分かっていませんでした。中学時代は勉強をまったくやらず、将来性が見えていませんでした。そんな時、私は簿記という教科に出会いました。この簿記が私の人生を大きく変えました。同時に、簿記の楽しさや、難しさも教えてもらいました。一年次の冬に、簿記の基礎となる級である、全商2級と全経2級に合格をしました。合格はしたけれども、私は、流れで覚えてしまっていたのでした。その事がわかったのが二年生になり、一人の先生に会い日商2級の勉強を始めた時のことでした。その先生がいなかったら私は、検定も受かっていなかったし、中央大学にも行くことはできなかったでしょう。

二年生の秋、日商2級を受験しました。結果は25点で不合格！ ショックでした。全く歯が立たない。なぜ25点しか取れなかったのか、それは、基礎が固まっておらず、まったく問題が解けなかったのです。この時に、簿記の難しさ、怖さも知りました。しかし、私は先生にたくさんの問題を用意してもらったり、自分でたくさん問題集を買い、基礎を固めていきました。応用問題も解けるようになります。私は、あらゆる問題を解きました。しかし、次の検

定、受けたけれども66点で不合格!! 絶望でした。絶望の中、たくさんの仲間、先生が励ましてくれました。私はもう一度やる気を起こしました。

三年生の夏には、日商2級のあしがためになる、全商の1級に合格しました。成績も今までに取ったことがない成績をとり、中央大学を受験しました。結果は合格!! この結果を受けて、私は二つの課題を自分にだしました。一つ目は、日商2級と全経1級の簿記検定の合格。二つ目は、全商3冠の達成です。

秋になり、私は悲願であった日商2級に合格をしました。大学に進学した過去の先輩達はみんな取得して三商を出たと言われていたので、少し、合格して安心をしました。また、全商電卓検定1級も取り3冠まであと一つになりました。

最後の冬、全商の商業経済検定1級に合格することができました。また、最後に全経簿記1級に合格することができました。時間はかかったけれども、自分に出した課題を私は達成して、三商を出ることができました。

高校生活は、長いようで短かったです。「一期一会」、高校生活は、この言葉があてはまるでしょう。たくさんの先生に会うことができました。怒ってくれたり笑ってくれたり、時には一緒に泣いてくれる先生もいました。簿記に会えて好きになれたのも先生方のおかげです。そして、入学当時、英語が嫌いだっただけが少し英語が好きになれたのも、担任の先生、クラス担当だった先生のおかげです。ありがとうございました。また、たくさんの友達、ライバルと呼ぶことができる、仲間にも出会うことができました。ライバルである友達がいなかったらこそ、検定もたくさん取れました。四月から大学生となり、もっと高い級の簿記を取得するよう、努力します。同時に、同窓会にも参加をし、たくさんの会計士である先輩方にお会いし、いろいろなお話をお聞きしたいと思っています。

祝 辞

二十六期 同窓会副会長 岩瀬 和子

今、母校は女子生徒の方が多い状態です。そこで二十年度の入学式、卒業式の祝辞をのべる大役をお任せつかりました。

入学式は経験豊かな三浦副会長の原稿に私の気持ちを入れのべました。

卒業式では、卒業時に同窓会費として一万円納入してもらっていますが同窓生だけでなく在校生にも援助している事を知ってもらおうと思いい、次のような祝辞をのべました。

『同窓会を代表いたしまして一言お祝いをのべさせていただきます。』

卒業生の皆さん今日は本当におめでとうございます。又、保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

三年間にわたりたゆまぬ勉学のおかげで卒業証書を手にした皆さん、大きな希望を抱いて実社会へ巣立ったり、又上の学校へ進まれる喜びを心よりお祝い申し上げます。皆さんの前途には希望にあふれた世界が待ち受けております。

八十二年という永い歴史と伝統を誇る三商に学べた事を誇りに思い、どうか健康に注意し自己のベスト尽くし、目的に向かい一步一步確実に前進されることを期待しております。

この場をおかりして同窓会についてお話しをしたいと思います。

毎年七月頃同窓会報を発行しております。昨年は八十周年特別記念号を発行しました。これを卒業生の皆さんに、卒業証書入れと共に贈りさせていただきます。

そして隔年毎に同窓会の総会が開催されております。来年開催されますのでご招待致します。多数の方のご参加をお待ち申し上げます。

尚転居された時は同窓会の役員であります渡邊先生にぜひご連絡してください。

同窓会では在校生の皆さんにも支援を行なっております。



クラブ活動には大会参加費、加盟登録費等、そして就職活動として先生方が企業訪問の際の支援を行なっております。又財団法人三商会より育英奨学金を交付させていただいております。



長くなりましたが、卒業生の皆さんにはいろいろなところで先輩方と出会われると思いますが、きつとお力になって下さいませ。

私は卒業してちょうど五十年になりますが、良き友人、そして素晴らしい同窓生の方々にめぐり合わせていただいた母校に深く感謝しております。

希望にあふれた未来にご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。
『ご卒業おめでとうございます。』



『氷園』（長野県北佐久郡軽井沢千ヶ滝845-9）

表題の「氷園」とは、同期竹内己喜男君の所有にして、之は彼が日本フィギュアスケート界の揺籃期より明治大学選手そして日本代表選手を何年もやって、世界中を股に掛けた後は連盟の監督、強化部長を引受け同連盟の為、選手育成の一端として、自力で昭和47年、軽井沢の地に合宿所兼別荘を建設、それを多とされ、当所にお出ましご宿泊下された三笠宮殿下（昭和天皇の弟君）が、この建物に「氷園」と御名付を賜った由、歴代のフィギュアオリンピック選手、佐野実、渡辺エミ、佐藤由香、荒川静香、等々がここから排出し、彼が同連盟に対し多大な貢献を致した場所です。

さて7月1日 暑からず涼しからずの我々の年令にふさわしい誠に旅行日和、第一日目、上信越自動車道を行き、妙義山神社、旧軽銀座を散策、拝殿本殿が上野・信濃の両国にまたがり、建物の真中が両国の境界の熊野神社、これらは霧の摩周湖ならぬ霧の軽井沢山中を自称美男六人が、エステマに同乗ドライブ、そして千ヶ滝温泉に直行、夕食を含めて12時迄、上は床屋政談、下は上品なるアッチの話を喜々として、勿論酒が入ってのカンダン、そしてカンダン。さかなは同期で落語素人名人 青山徳蔵君の指入れ、特上の鴨肉他もろもろ。

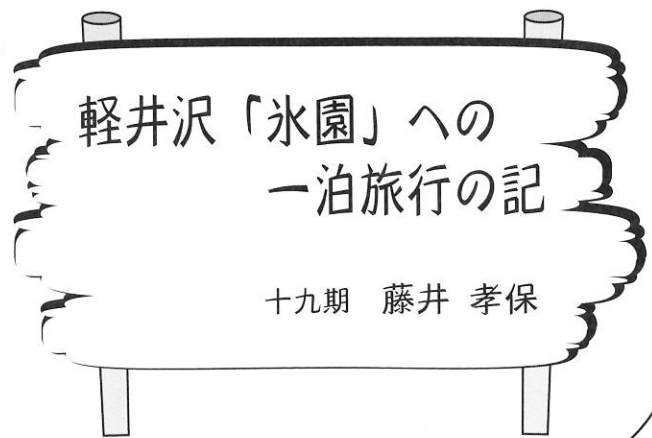
二日目は6時起床、森の中を全員、早朝の別荘地をウォーキング、朝食後、小諸温泉あぐりの湯、二日間、男をミガキに温泉のハシゴ。

昼食は名店「藤舟」で安くて旨かった。うな重の上、価は1,680円 皆々大満足の旅行で参加者は、同期竹内己喜男・勝亦 弘・中村三郎・渡辺康弘・木戸隆吉・藤井孝保。

感謝してもしきれぬのは、両日に渡り、ドライバー、案内役を引受けて、練達なる安全運転での勝亦氏の活躍には、参加者全員が感激の念で一パイでした。又「誰もが、又来たいな」には之又 全員賛成。一路帰京。解散。

附記

「千ヶ滝温泉」「あぐりの湯」の両湯はトテモトテモおすすめで大のゲーでした。



軽井沢「氷園」への
一泊旅行の記

十九期 藤井 孝保

アンケート (21年1月) の結果報告

卒業期	年齢	同期会は		貴方の期では同期会を		定期的に行なっている		幹事はどう決めているか		参加人員
		やった方がよい	やらなくて良い	行なっている	行なっていない	定期的	不定期	特定の幹事	持ち回り	
～9期	84～	1								
10～15期	79～83	3	1	2	2	2	2	3	1	20～40
16～20期	74～78	5		5				4	1	20～60
21～25期	69～73	11	1	12		8	4	9	3	30～100
26～30期	64～68	6	1	5	2	3	3	1	6	100～150
31～35期	59～63	4	1	5		3	2	5		120～150
36～40期	54～58	3	1	3	1	1	3	1	3	120～160
41～45期	49～53	4		4			4	3	1	100～180
46～50期	44～48									
51～55期	39～43	1	1		2					
56～60期	34～38									
61～65期	29～33	1			1				1	
66～70期	24～28									
71～75期	19～23	2	1	2	1				3	



6月27日(土)開催のコーディネート会議



アンケートの結果分析

① 同期会を行わない理由

- ～15期 物故者が多くなり、高齢化が進み会の運営が難しくなった。
- 16～20期 80歳になったら同期会の解散を考えている。
- 26～30期 幹事次第では開催が可能。
- 31～35期 同期会は大変なのでクラス会でよい。
- 46～50期 幹事を引き受けてくれる人がいない。
- 51～55期 開催してもドタキャンが多く幹事がキャンセル代を負担した。
- 61～65期 同期会の名簿が無い。同期会をやってみたいがどうやって開催したらよいかわからない。
- 71～75期 卒業してまもないため同期会はまだ考えていない。クラスごとには集まっている。

② 同窓会についての意見・要望

- 16～20期 同窓会の運営に満足している。
- 21～25期 若い期の参加を呼びかけたい。各期のまとめ役の人たちの会合を同窓会で企画したら。
- 26～30期 評議員会の会議の時間に余裕をもってもらいたい。
- 31～35期 新しく名簿を作ってもらいたい。
- 36～40期 開催日を土曜、日曜に集中せず一考が望ましい。
- 46～50期 名簿の管理が問題。OBを名乗りセールス電話がある。
- 51～55期 子供がまだ小さいため、会の運営、参加が難しい。
- 56～60期 会費の負担を少なくできないか。

9期以前の高齢に達した方々は、80歳を境に会をやめる期が多い
又46期以後の若い世代に同期会を行っていないのが目立つ

同窓会では同期会を出来るだけ行なってもらうために、 いろいろな助成を行いますので、相談してください。

事務局便り

『同期会開催の コーディネート会議』

副会長(事務局) 三浦 康二

平成二十一年度の同窓会活性化活動の重点項目である
コーディネート会議が、去る六月二十七日(土)、両国のホ
テルベルグランドの会議室にて開催。杉本事務局長、岩瀬
副会長の出席のもと、三七期、五四期、六七期、六八期の
代表七名が参加、それぞれの期別の実情が報告され、同期
会を開催したいのだが、どのように準備をして、どのよう
な手順で同期会を成功に開催ができるか、活発な意見交換
がなされた。

その中で最大の課題は名簿の作成である。ある期の代表
は、同期会開催の準備のために

名簿作りに着手しようと、学校側に評議員であることを
告げて、名簿の借用を申出たところ、学校より個人情報保
護の理由により拒否されたという報告もあった。やはりい
ちばん、名簿作りが苦勞するということがそれぞれの共通
課題となっている。

それでも各クラス毎の情報や、友人同士の情報等をもと
に名簿の作成に取りかかり、来年の春ごろを目標に各期は
同期会の開催に向けてスタートを切ること約束をし合っ
た。

杉本、岩瀬両氏より、同期会の成功例を引かれ、同期会
に必要な課題を一つ一つていねいに説明があり、同窓会と
しても色々なノウハウ、また準備の手伝い、備品の提供等
できる限りの応援をすることの話があり、それぞれの期
は、同期会成功に向けて出発をいたしました。

これからも新たな期で同期会を初めて開催をしたいとい
う期がありましたら、いつでも事務局の方に連絡をいただ
ければ、対応してまいりますので、連絡をお待ちしてお
ります。

同窓会の活性化のために皆様の多大なる御意見、御要望
がありましたら、お寄せ下さい。

新 同 窓 会 会 則

第1章 総 則

第1条 本会は東京都立第三商業高等学校同窓会と称する。

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、東京都立第三商業高等学校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するため、必要に応じ、次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 奨学援助及び進路指導に対する助成
- (3) 各種研修会、見学会及び講演会等の開催
- (4) 会員名簿の編纂・発行
- (5) その他必要と認める事業

第4条 本会は本部を東京都立第三商業高等学校内に置く。

第2章 会 員

第5条 本会の会員は、下記の資格のうちの一つを有する者とする。

- (1) 名誉会員 本会に功労があり評議員会が推挙する者
- (2) 特別会員 東京都立第三商業高等学校教職員であった者
- (3) 正会員 東京都立第三商業高等学校の卒業生

第6条 本会は東京都立第三商業高等学校在校生をもって本会会友とする。

第7条 正会員は終身会費を納入しなければならない。

- (1) 会費については1万円とする。
- (2) 同窓会入会同意書は、入学時に提出する。

第3章 役 員

第8条 本会に役員として、理事30名以内、監事3名以内及び評議員を置く。

理事及び監事は評議員会において選出するものとする。

選出された理事の中から、下記の役員候補者を互選する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 会 計 2名
- (4) 事務局 事務局長を含む5名以上

第9条 理事及び監事は評議員を兼ねない。

副会長、会計及び事務局は理事会において理事の中より互選する。

評議員は各期毎に、その正会員の中より若干名を選出する。

但し議決権は一名一票とする。

第10条 会長は本会を代表し、会務を統括する。

会長は理事会の議長となる。

副会長は会長を補佐し、会長不在のときはこれを代理する。

第11条 理事は理事会の決議または本会則の規定により会務を掌理するほか、会長、副会長共に不在のときは互選によってその職務を代理する。

第12条 監事は事業及び年度会計・財産の監査を行い、年次定時評議員会においてその結果を報告する。

監事は理事会に出席して所見を述べることができる。

第13条 会計は本会財産の保全、年次予算の策定・執行とその決算報告を行う。

事務局は本会の運営に関わる諸業務を掌理する。

第14条 評議員は同期会員の意見を総括し、それを評議員会において提議すると共に、評議員会の構成員として、その役割に努める。

第15条 役員は任期は2年とし、任期の起算日は評議員会において選出後に就任し、2年後の年次定時評議員会の終結時までとする。

但し再選を妨げない。

役員は任期満了後も後任者の就任まではその職に在るものとする。

補欠者の任期は前任者の任期満了時までとする。

第16条 理事会は第8条規定の理事で構成する。理事会は第3条規定の事業及び第13条規定の諸業務を立案し、評議員会の承認を経てそれを執行することの外、評議員会の委任による事項を決議し執行する。

但し、緊急の場合は、評議員会の速やかな事後承認を条件に、理事会の決議をもって評議員会の決議に代えることができる。

第17条 評議員会は第8条規定の評議員で構成する。議長は出席評議員の中より選出する。

評議員会は第9条規定の外、理事会より提出された第3条規定の事業、年次予算案、年次会計報告及び其の他必要事項を審議し、決議する。

第18条 本会は理事会の決議を経て、顧問及び参与を置くことができる。

第19条 理事会は会長が必要と認めたととき、または理事5名以上の請求があったとき会長がこれを招集する。

評議員会は毎年1回定時に開催する。但し第28条に定める事項が生じた場合は、その都度臨時に開催する。

第20条 理事会はその全員の2分の1以上の出席をもって成立し、議事は出席員の3分の2以上をもって決定する。

評議員会はその全員の3分の1以上の出席をもって成立し、議事は出席員の2分の1以上をもって決定し、可否同数の時は、議長がこれを決する。

両会の表決は予告事項については委任状または代理人によることができる。

第4章 総 会

第21条 定時総会は特別な理由なき限り2年毎に開き、臨時総会は理事会が必要と認めたとときに開くものとする。

第22条 総会は会長がこれを招集する。総会の目的、期日及び場所の通知は書面をもって行う。但し本会会報でこの通知をなすこともできる。

第23条 下記の事項はこれを総会に報告しなければならない。

- (1) 前総会以後の年次収支決算
- (2) 直近の財産目録
- (3) 事業報告

第5章 会 計

第24条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。

第25条 本会の経費は会費、寄付金及び其の他の収入をもってこれに充てる。

第26条 毎会計年度の収支は収支均衡を旨として策定された予算に基づいて厳正に管理されなければならない。

年次収支予算及び同決算は評議員会の承認を要する。

第6章 附 則

第27条 本会の事務に関する細則は理事会において定める。

第28条 本会則の改定及び本会に関わる重要事項については評議員会の議決に付さなければならない。

第29条 本会則は平成21年5月9日より有効とする。

以 上

日本原色印刷工業株式会社

代表取締役 高久三男

〒131-0043 東京都墨田区立花1-34-4
TEL 03(3618)5601 FAX 03(3618)5602
E-mail: info@genshoku.jp
http://www.genshoku.jp

医療法人社団 飯ヶ谷内科クリニック

理事長 飯ヶ谷 清
医学博士

(第22期)

千葉県鎌ヶ谷市東道野辺5-19-15

TEL 047(445)8881

TCA1973年9月創立

東京クラシック愛好家協議会

代表 鈴木 重行(日比谷高校(財)星陵会理事長)

主任解説員 柴崎 晴雄(都立第三商高 25期卒)

♪ 毎月例会を上野・東京文化会館4階会議室
にて開催しています

お問合せ先：電話/FAX 03-5681-1398 柴崎

魚河岸

海老、貝仲間

土方商店

土方敏之(第29期)

〒104-0045 東京都中央区築地5-2-1

電話 & FAX 03(3541)8408

「らんぷ」の仲間

☆第十代生徒会役員の会も50周年を迎えました☆

橋本宣一(27) 片山千代子(27) 塚本博子(27)
根岸秀満(27) 山中夢か子(27) 能田博子(27)
鎌形泰央(27) 樋口昭男(27) 鈴木久美子(26)
吉本 舜(26) 藤村栄三(26) 鶴岡恒夫(26)
近藤春實(26) 大塚英紀(26) 和気賢三郎(26)
会長 古田勝一(26) 副会長 志村泰男(26) 書記長 豊田紀雄(26)

有限会社 みのる不動産

東京都宅地建物取引業協会会員

代表取締役 三川 廣 志

(第34期)

■ 亀戸店 東京都江東区亀戸7丁目11番12号京葉道路面
TEL (3684) 5851(代) FAX (3684) 5850
E-mail: mk@e-minoru.com
■ 本店 東京都江東区北砂7町4番3号環状四号面
TEL (3644) 7537(代) FAX (3640) 2543

小型生コン製造販売
日本工業規格表示認定工場
小野建材工業株式会社

代表取締役

小野

雄久

(第二六期)

事務所
〒132-0035 東京都江戸川区平井七丁目二番二十九号
電話 〇三(三六一七)四一一(代) 〇三番
FAX 〇三(三六一七)四一一 〇三番
自宅
〒132-0035 東京都江戸川区平井七丁目七十二番一号
電話 〇三(三六一一)五〇四〇番

母校の更なる発展を祈ります

25期

若水会

51年間集いを続けています。

32期 高橋 浩

東京都江戸川区西篠崎
2-19-4

電話/FAX 03-3678-6067



第一ホテル両国店
店長 岩田 和行

株式会社 東天紅
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-6-1
第一ホテル両国2階
Phone: 03 (5608) 1015 Fax: 03 (5608) 1018
e-mail ryogoku@totenko.jp
URL http://www.totenko.co.jp

おしゃれエプロンメーカー

有限会社
篠崎

取締役会長
篠崎 清
(第22期)

〒272-0021
市川市八幡4-17-33
TEL 047-334-5027
Fax 047-334-5432



株式会社 早川商会

代表取締役 早川 嘉一

第26期 (卓球部)

〒123-0873 東京都足立区扇1-45-22
TEL 03-3898-3336・6996
FAX 03-3889-6909
hayakawa-s@tokyo.email.ne.jp

特殊製袋加工・印刷 紐付巾着袋・フィンバッグ・手提バッグ
テープハンドルバッグ・LD丸底袋
LDジャケット袋・ファイル用袋各種



株式会社 杉本好二商店

代表取締役 杉本 光男

第26期 (卓球部)

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5
TEL 03-3623-2185
FAX 03-3623-1859

砂利・砂・セメント・砕石
生コンクリート・アスファルト 販売店

有限会社 大石商会

リサイクルショップ
てるてるぼうず

取締役 大石 傑一郎
会長 (23期)

曳舟本店 〒131-0032 東京都墨田区東向島2-14-1
TEL 3616-2439 (代) FAX 3616-2456
メゾンド大石1F 東向島店 ☎3616-2430
自宅 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-28-5
蔵前大石ビル4F ☎3861-0084

代表 中野 貞三

〒133-0056 江戸川区南小岩七ノ三十八ノ十一
TEL 〇三・三六五八・六三四一
FAX 〇三・三六五八・六三四〇

◎毎月(除七・八月)十九日
(土、休日は前金曜)
他の期の方も参加しています。

三商十九期散歩会
都内・近隣
史跡めぐり

荻野会計事務所

税務・経営相談
http://www.d3.dion.ne.jp~zei_ogi/

税理士 荻野 弘康
(昭和30年卒 簿記部)

事務所 東京都荒川区南千住5丁目25番14号
〒116-0003 TEL 03 (3803) 2 3 2 8
FAX 03 (3805) 2 0 6 9
E-mail:zei_ogi@d3.dion.ne.jp
交通:地下鉄三ノ輪・JR南千住下車

TRADE MARK



三興徽章株式会社

東京都江東区佐賀1~7~10 三興徽章ビル ☎135-0031
TEL 代表 (3641) 4 4 2 6
ファクシミリ (03) (3641) 4 4 1 4
バッグ・カップ・トロフィー・記念品
両国支店・両国ショールーム ☎130-0011
東京都墨田区石原3-15-4
ダイアパレス 錦糸町 第五101号

古田 勝一 (第26期)、古田 純代 (旧姓斉藤・第28期)

江戸蕎麦打處
あしただ

江戸時代より続く
伝統のわざと味

二階座敷二〇名、椅子石一〇名にて
クラス会等にご利用頂いております

コース料理、鴨なべ、烏すき等
揃えてお待ちしております

定休日 日曜祝日 第一・第三土曜日

台東区浅草橋二・二九・十一
江戸通り浅草橋と蔵前の中程
電話 〇三(三八五) 五四一三

(第二八期) 粕谷安孝

あさだHP <http://www.asada-soba.co.jp>

親切に、お客様第一に業務を行います。

公認会計士 浅野 修一
税 理 士
(第21期卒)

事務所 〒110-0015 台東区東上野1-24-4 丸千第二ビル
電話03-3835-2233 FAX03-3832-7175

Law Office
一橋法律事務所

TEL 042 345 2722
弁護士 越路正巳(22期)

『両国の駅のおそばの大関庵
味も良ければ盛りもよい』

そば処 大 関 庵
19期 大 関 守

JR両国駅西口
国技館通り中程 TEL.03-3631-0728

どじょうすくい踊り教室

読売日本文化センター 錦糸町 (第1&3日曜日) 10:00~11:30
朝日カルチャーセンター 千葉 (第2&4金曜日) 13:00~14:30

講師 後藤省三 (第28期)

安来節保存会 踊師範 (大利根支部)
〒272-0033 千葉県市川市市川南1-1-8-808
TEL&FAX 047-321-0786

丸喜株式会社 20期

MARUKI 代表取締役会長 河原啓介

本 社
〒111-0032 東京都台東区浅草6-4-12
Phone:03-3876-1751 Fax:03-3875-6168
<http://www.maruki-net.com>
E-mail:k-kawahara@maruki-net.com

そばの味
みまろ

(墨田区銘品名店会)

住所/東京都墨田区江東橋 4-20-4
TEL/03-3631-5850
定休日:土曜及び祝日です

河西紀道 (第25期)

細く長く どちらも自然食
太く長く



東京魚市場 三水会

会 長 藤枝 精治 (24期) 幹 事 土方 敏之 (29期)
 副会長 鬼澤 好男 (25期) “ 宇田川武志 (31期)
 会 計 加藤 晋一 (28期) “ 中村 一好 (32期)

[三水会の歴史]

昭和25(1950)年発足 平成 2(1990)年10月20日 ホテルメトロポリタンにて創立40周年開催
 40(1965)年10月17日第一ホテルにて創立15周年開催 12(2000)年 スエヒロにて創立50周年開催
 45(1970)年10月18日椿山荘にて創立20周年開催 22(2010)年 創立60周年開催(予定)
 55(1980)年 9月27日東京會館にて創立30周年開催

9期 小川 博敏(小川久)	20期 栗原 秀郎(越虎)	28期 加藤 晋一(佃亀新)
13期 今関 隆一	23期 井上 武久(て良)	28期 谷島 隆
14期 内田 旭(丸 辰)	24期 加藤 守宏(加藤)	29期 土方 敏之(土方)
15期 干場 常雄(米 恵)	24期 藤枝 精治(尾藤)	31期 宇田川武志(カネキン宇田川)
16期 小川祥太郎(小川兼)	25期 鬼沢 好男(伊勢由)	32期 中村 一好(増分)
18期 北原 郁夫	26期 渡辺 照雄(渡福)	
19期 桐ヶ谷正保(ツ尾清)	27期 伊藤 隆悠(西保)	

ご寄稿・広告ご掲載のお願い

次号「三商同窓会報」(第49号)にご寄稿をお待ちいたします。
 また、同窓会名簿の発刊に換え、下記要綱により、**広告掲載の募集**も行いますので、奮ってお申込み下さいますようお願い致します。(原稿締切日は毎月5月31日です。)
 お問い合わせ・お申込みにつきましては下段の「同窓会事務局(編集者)」にて承ります。

サイズ	天地 × 左右	紙 面	広告料金
A	60mm × 95mm	8分の1ページ	5,000円
B	120mm × 95mm	4分の1ページ	10,000円
C	120mm × 190mm	2分の1ページ	15,000円
その他 個人名刺広告	60mm × 45mm	16分の1ページ	3,000円

印刷所
 日本原色印刷工業株式会社

編集者
 東京都墨田区業平の一七の五
 都立三商同窓会事務局
 杉本 光 男
 電 話 ○三(三六二三) 二一八五
 F A X ○三(三六二三) 一八五九

発行責任者
 三商同窓会報委員会

発行者
 東京都立第三商業高等学校同窓会

平成二十一年七月一日発行

三商同窓会報 第四十八号